

# 令和5年度（2023年度）宮崎支部医療費統計分析

---

2025年7月14日

全国健康保険協会 宮崎支部 企画総務グループ

## 資料の位置づけと目次

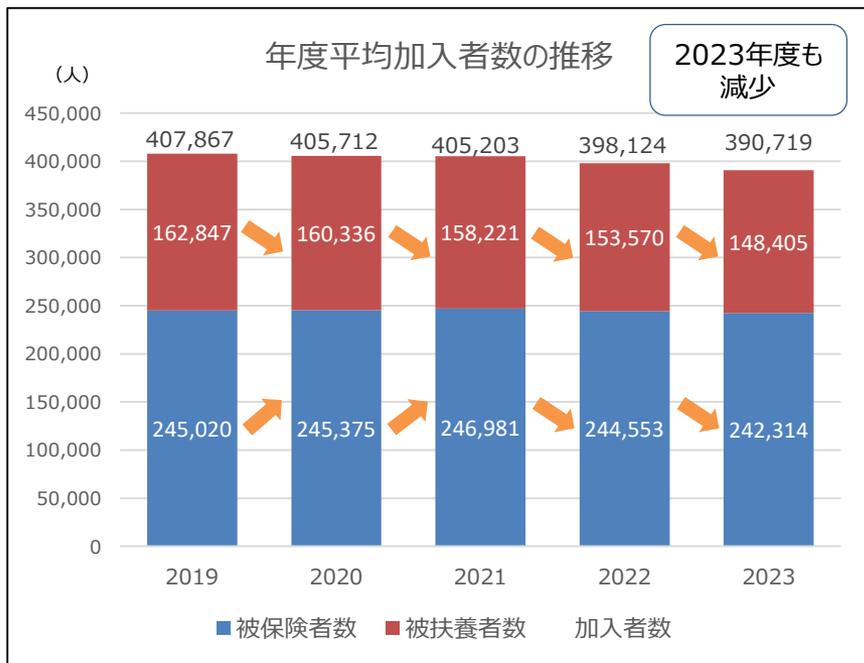
本資料は、全国と比較した宮崎支部の加入者数や報酬、保険給付や医療費の基本的な情報について、2023年度を中心に報告を行うものである。

### 【目次】

項番	項目名	ページ
1	平均加入者数の状況	2～4
2	業態別被保険者数の状況	5
3	標準報酬月額状況	6
4	保険給付費の状況	7～9
5	一人当たり医療費の状況	10～11
6	全国平均との比較	12～16
7	疾病別医療費の状況	17～19
8	疾病別医療費の全国乖離額の状況	20～27
9	まとめ	28

# 1-1. 支部平均加入者数について

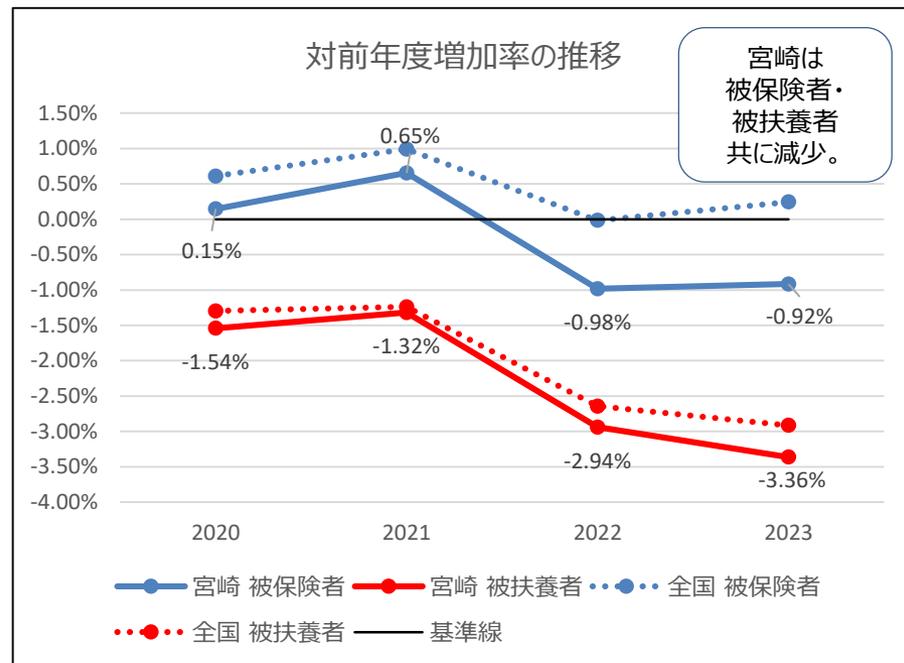
加入者数は2020年度から減少が続いており、2023年度も減少となった。全国では被保険者は0.25%増とわずかに増加したが、宮崎支部では0.92%減少した。



(参考：全国の平均加入者数の推移)

年度	被保険者数	被扶養者数	加入者数
2019	24,732,958	15,611,583	40,344,542
2020	24,883,571	15,409,154	40,292,726
2021	25,130,238	15,218,247	40,348,485
2022	25,126,162	14,815,980	39,942,142
2023	25,187,750	14,384,003	39,571,752

※ここでいう「(平均)加入者数」は各月末時点の数値を累計し12で除した値。任意継続加入者を含む。



(対前年度伸び率の推移)

年度	宮崎被保険者	宮崎被扶養者	全国被保険者	全国被扶養者
2020	0.15%	-1.54%	0.61%	-1.30%
2021	0.65%	-1.32%	0.99%	-1.24%
2022	-0.98%	-2.94%	-0.02%	-2.64%
2023	-0.92%	-3.36%	0.25%	-2.92%

# 1-2. 性別・年齢階級別加入者数について

前年度と比較すると、被保険者は男性・女性ともに30歳代と40歳代で減少した一方で、男性は50歳代、女性は70歳代で増加した。被扶養者のうち女性は、すべての年齢階層で減少した。

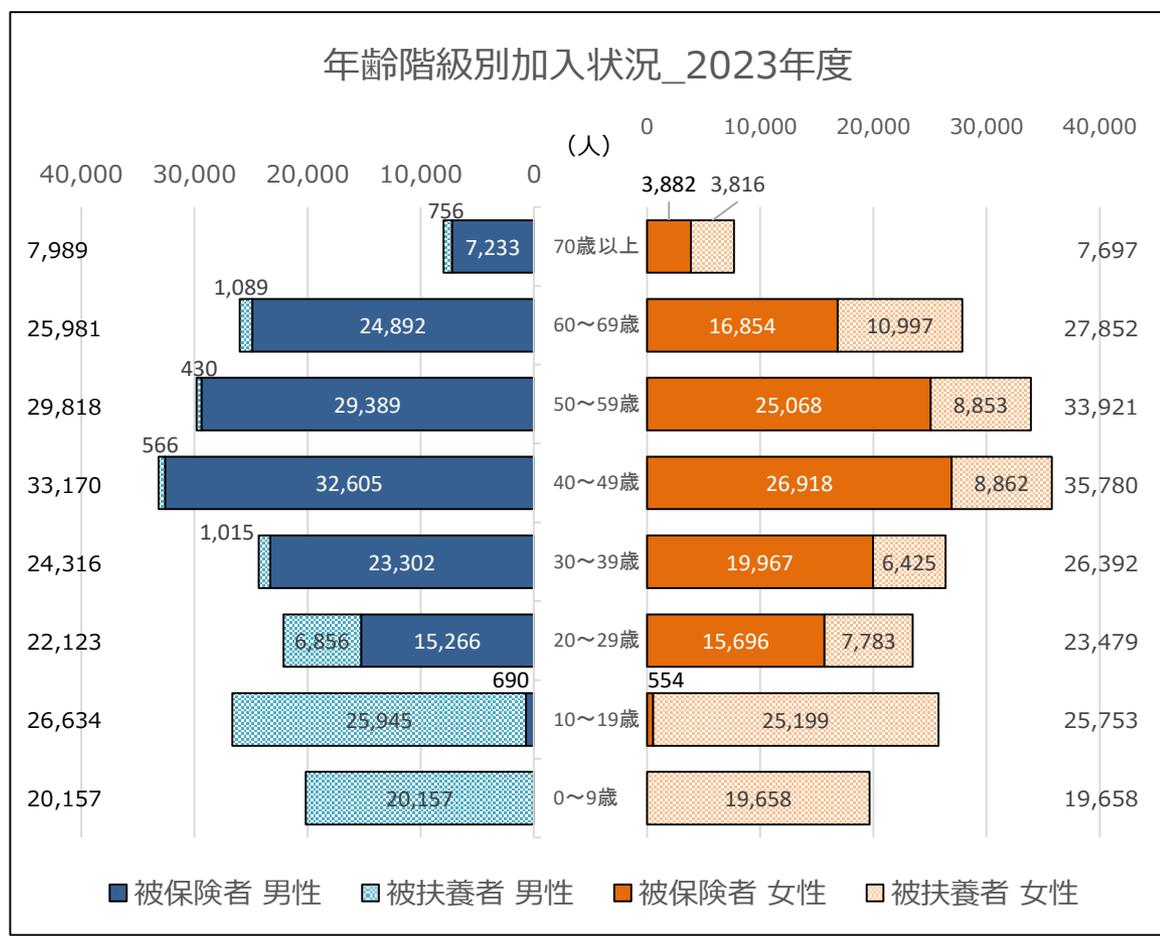
(対前年度伸び率〈括弧内は比較用の前年度数値〉)

年齢階級	被保険者 男性	被扶養者 男性
0～9歳		-4.3%(-8.1%)
10～19歳	7.1%(-31.6%)	0.1%(0.7%)
20～29歳	0.6%(-6.2%)	-2.2%(11.4%)
30～39歳	-2.8%(-5.2%)	-5.8%(-0.7%)
40～49歳	-2.0%(-1.0%)	2.1%(-0.9%)
50～59歳	3.7%(3.3%)	-5.8%(-3.6%)
60～69歳	-3.9%(-2.0%)	-8.5%(-11.9%)
70歳以上	0.7%(21.0%)	-6.4%(5.0%)
平均	-0.8%(-1.0%)	-2.2%(-1.9%)

年齢階級	被保険者 女性	被扶養者 女性
0～9歳		-3.8%(-8.4%)
10～19歳	5.3%(-41.3%)	-0.2%(1.0%)
20～29歳	-1.0%(-3.9%)	-1.9%(5.2%)
30～39歳	-2.1%(-4.8%)	-10.5%(-12.4%)
40～49歳	-2.7%(-2.5%)	-7.5%(-4.4%)
50～59歳	0.2%(0.5%)	-4.1%(-6.2%)
60～69歳	-0.6%(4.8%)	-7.6%(-5.3%)
70歳以上	6.0%(25.4%)	-4.4%(11.4%)
平均	-1.0%(-1.0%)	-4.1%(-3.6%)

30歳代・40歳代の被保険者伸び率は前年比マイナスとなった

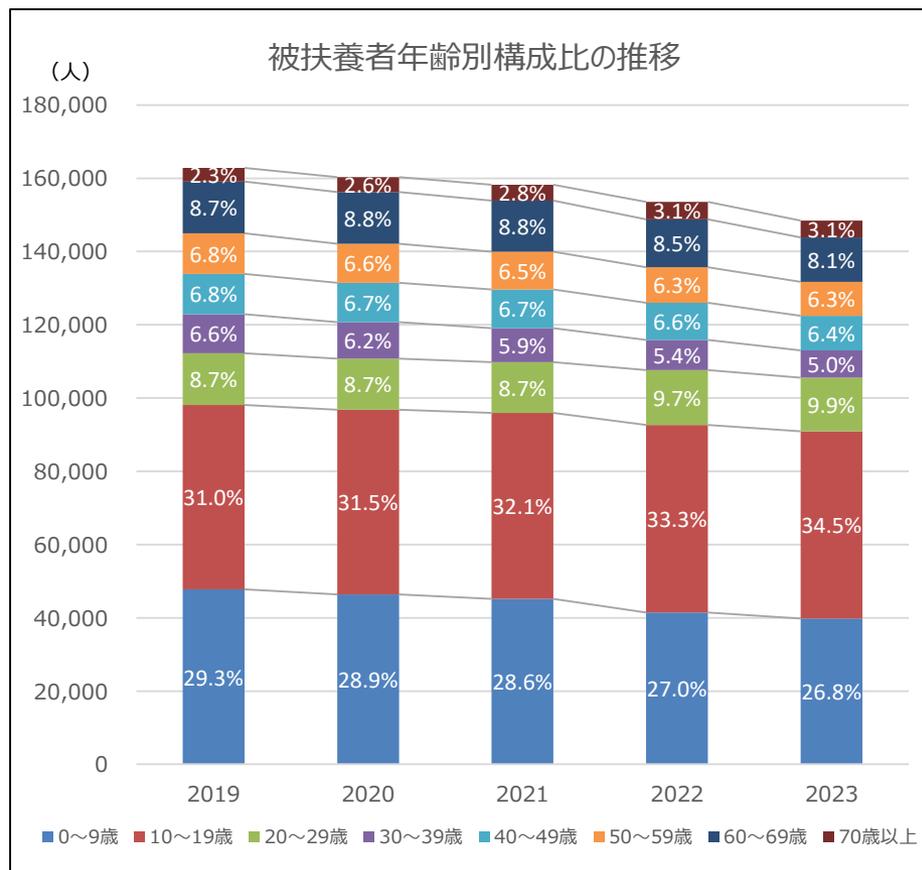
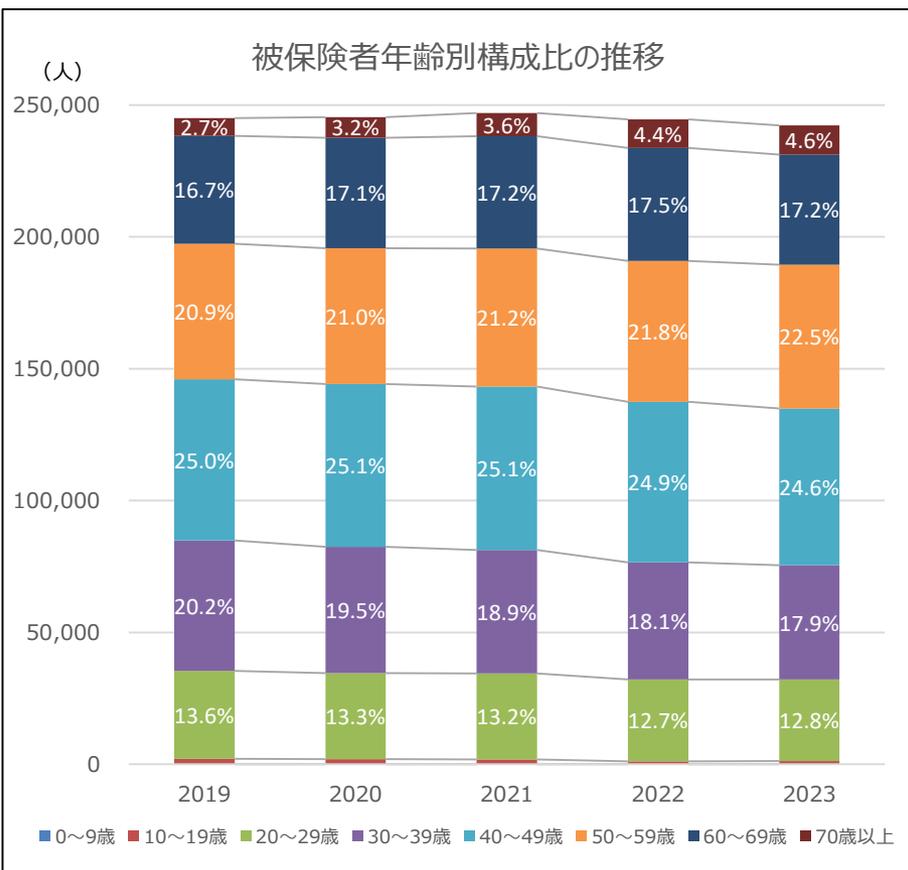


※年齢は年度末時点のもの。端数処理のため計数が整合しない場合がある。

# 1-3.加入者の年齢構成状況の推移

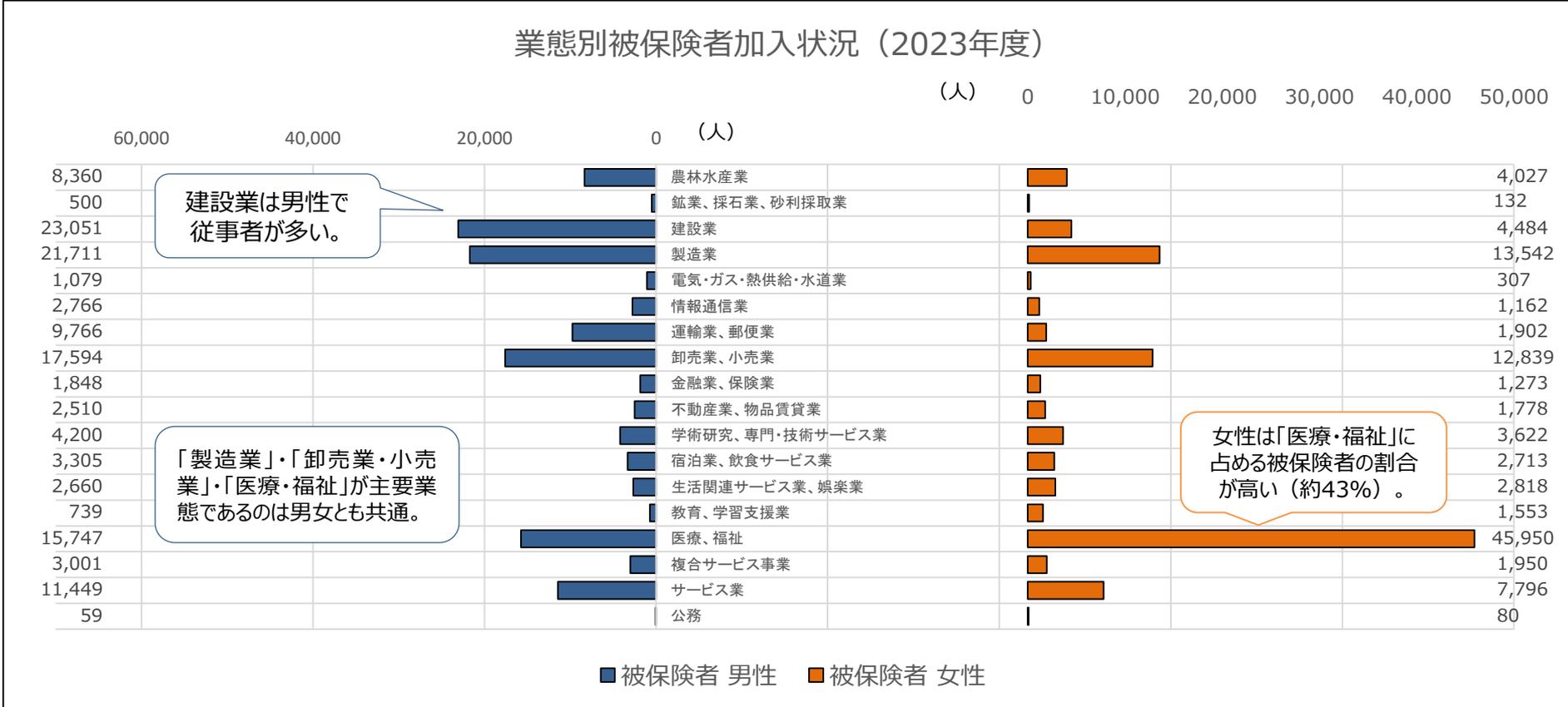
5年間の年齢構成の比率の推移を見ると、被保険者では50歳代及び70歳代の占める割合が年々増加しており、40歳代以下の年齢階層の割合が減少する傾向にある。

被扶養者では、0～19歳までの年齢階層が全体の6割を占める構成割合に変わりはないが、20歳代及び70歳代の占める割合が徐々に増加している。



## 2-1. 被保険者の業態別加入状況

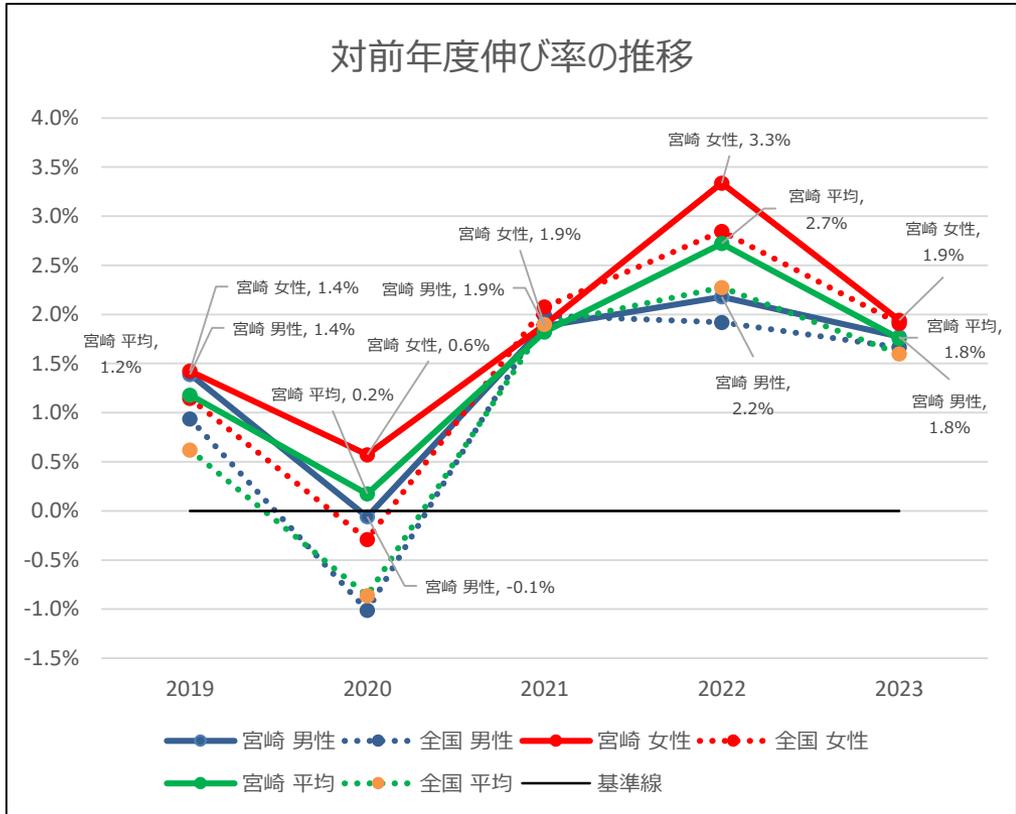
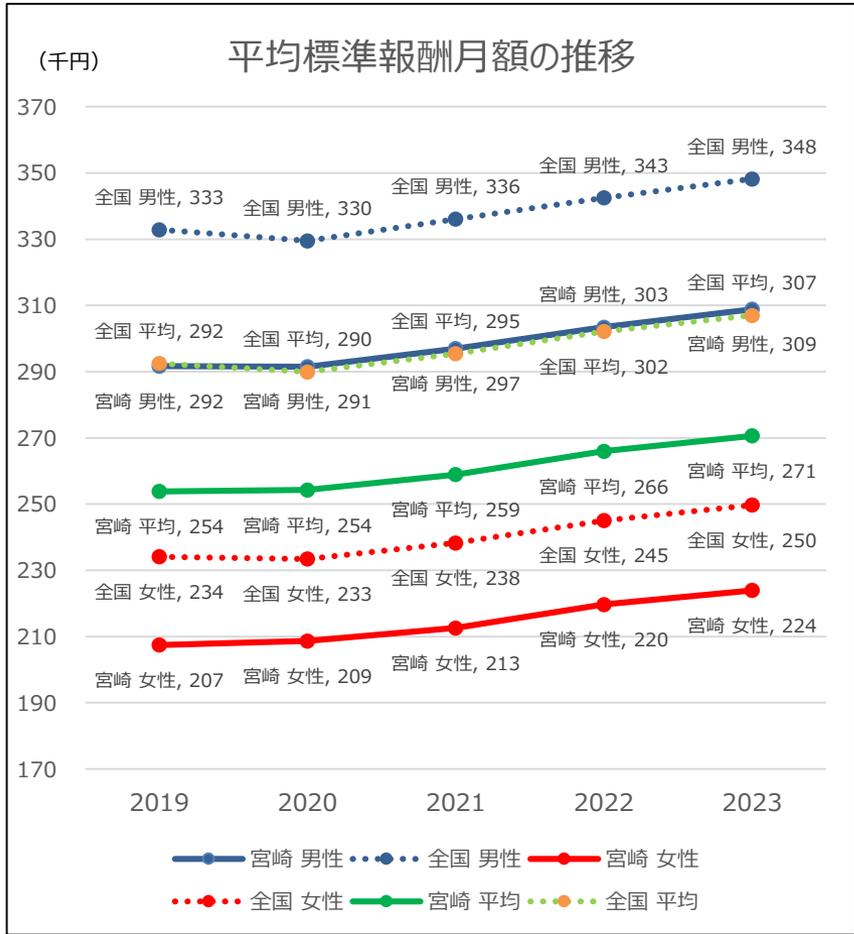
2023年度末の業態別の被保険者数について、男性では「建設業」「製造業」「卸売業、小売業」「医療、福祉」の業態が多く、女性は「医療・福祉」が多数を占めるとい違いはあるものの、主要な業態は男性と同じである。



※業態別で示されている数値は年度末の被保険者数であり、集計時点も異なるため、これまでの被保険者数と一致しない。以降も年度末時点の情報を示す。  
 ※新たな業態である「土業（有資格者が法律・会計関係の業務を行う事業）」は「学術研究・専門技術サービス業」に区分している。

### 3. 標準報酬月額状況

平均標準報酬月額の推移状況では、2021年度以降は対前年度比で上昇が続いている。宮崎支部の2023年度の対前年度伸び率は男性+1.8%、女性+1.9%。全国は男性+1.7%、女性+1.9%であり、全国と比較して伸び率に大きな差はなかった。



※標準報酬月額の数値は年度末時点のものを用いている。ここでいう「報酬」の金額は月額  
の給与金額を基礎としており、原則として賞与は含まれてない点に注意（年4回以上の賞与  
であれば含む）。

# 4-1. 保険給付費の推移状況

保険給付費の推移を確認すると、2023年度は金額にして約712億円と前年度より約13億円増加し、対前年度比+1.9%であった。内訳として入院で+5.0%、入院外で-1.5%、調剤（薬剤支給）で+6.6%と、入院と薬剤の医療費の伸びが高かった。

(保険給付額と伸び率の推移)

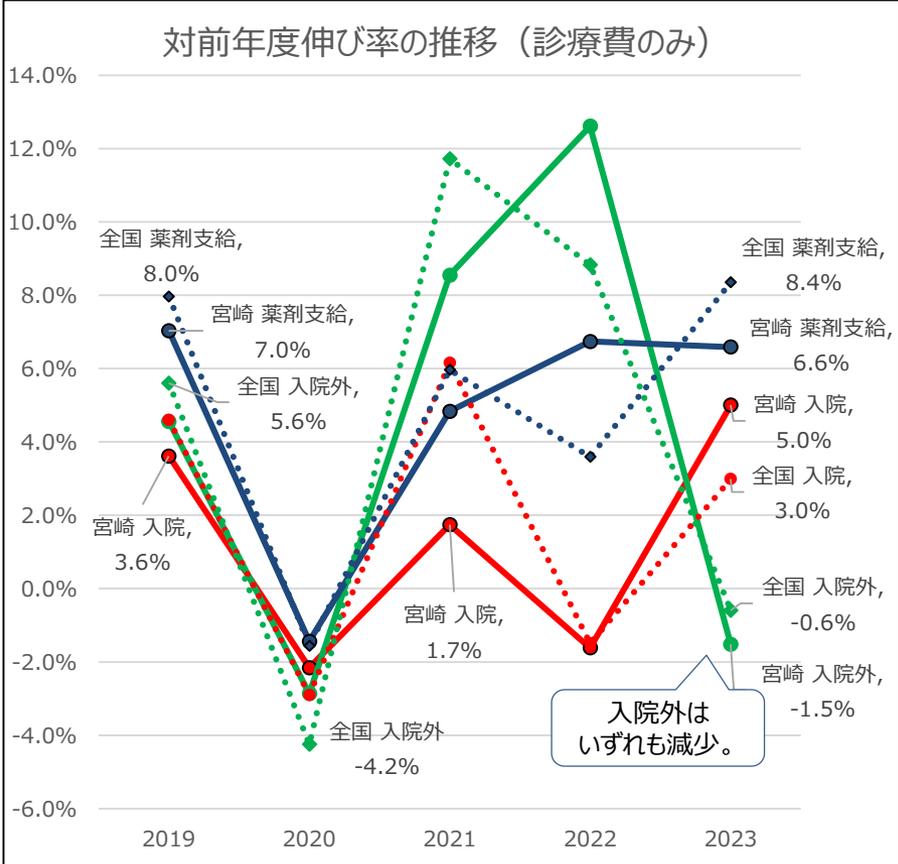
(千円)

		2020年度	2021年度	(伸び率)	2022年度	(伸び率)	2023年度	(伸び率)
保険給付費計		63,390,221	66,417,665	(4.8%)	69,875,398	(5.2%)	71,198,417	(1.9%)
医療給付費計		58,277,385	61,140,131	(4.9%)	64,325,792	(5.2%)	65,739,351	(2.2%)
医療給付	計	46,213,302	48,509,482	(5.0%)	51,030,386	(5.2%)	51,614,992	(1.1%)
	診療費							
	入院	19,484,353	19,824,099	(1.7%)	19,503,811	(-1.6%)	20,480,187	(5.0%)
	入院外	21,165,718	22,975,125	(8.5%)	25,872,830	(12.6%)	25,479,738	(-1.5%)
	歯科	5,563,231	5,710,258	(2.6%)	5,653,746	(-1.0%)	5,655,067	(0.0%)
	薬剤支給	10,713,463	11,231,375	(4.8%)	11,988,339	(6.7%)	12,778,281	(6.6%)
	入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給を除く)	230,668	225,523	(-2.2%)	210,898	(-6.5%)	214,038	(1.5%)
	訪問看護療養費	219,195	254,144	(15.9%)	264,944	(4.2%)	315,547	(19.1%)
	入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給)	400	568	(42.1%)	284	(-50.0%)	353	(24.3%)
	療養費	678,368	723,335	(6.6%)	663,809	(-8.2%)	647,154	(-2.5%)
移送費	263	57	(-)	0	(-100.0%)	0	(-)	
高額療養費 (合計)	221,690	195,393	(-11.9%)	167,133	(-14.5%)	168,979	(1.1%)	
現金給付	その他の現金給付計	5,112,836	5,277,534	(3.2%)	5,549,606	(5.2%)	5,459,066	(-1.6%)
	傷病手当金	2,426,835	2,541,872	(4.7%)	2,993,484	(17.8%)	2,853,865	(-4.7%)
	埋葬料	20,400	19,403	(-4.9%)	20,558	(6.0%)	20,879	(1.6%)
	出産育児一時金	1,767,492	1,753,216	(-0.8%)	1,614,684	(-7.9%)	1,643,647	(1.8%)
	出産手当金	898,110	963,043	(7.2%)	920,880	(-4.4%)	940,675	(2.1%)

※新型コロナの流行状況によって傷病手当金の申請状況は大きく変動するため、患者数が多かった2022年度は大幅な伸び。

# 4-2. 保険給付費の伸び率全国比較

保険給付費の伸び率を全国と比較すると、昨年度は全国を上回っていたものの、2023年度では入院以外は全国を下回っている。入院では宮崎+5.0%と全国+3.0%の伸び率を上回ったが、薬剤支給では宮崎+6.6%と全国+8.4%の伸び率を下回り、入院外は宮崎-1.5%と全国-0.6%よりも減少の幅は大きい。2021年度・2022年度における入院外の前年度伸び率が高い要因として、新型コロナ発生による受診控えの反動、新型コロナの流行拡大が考えられる。

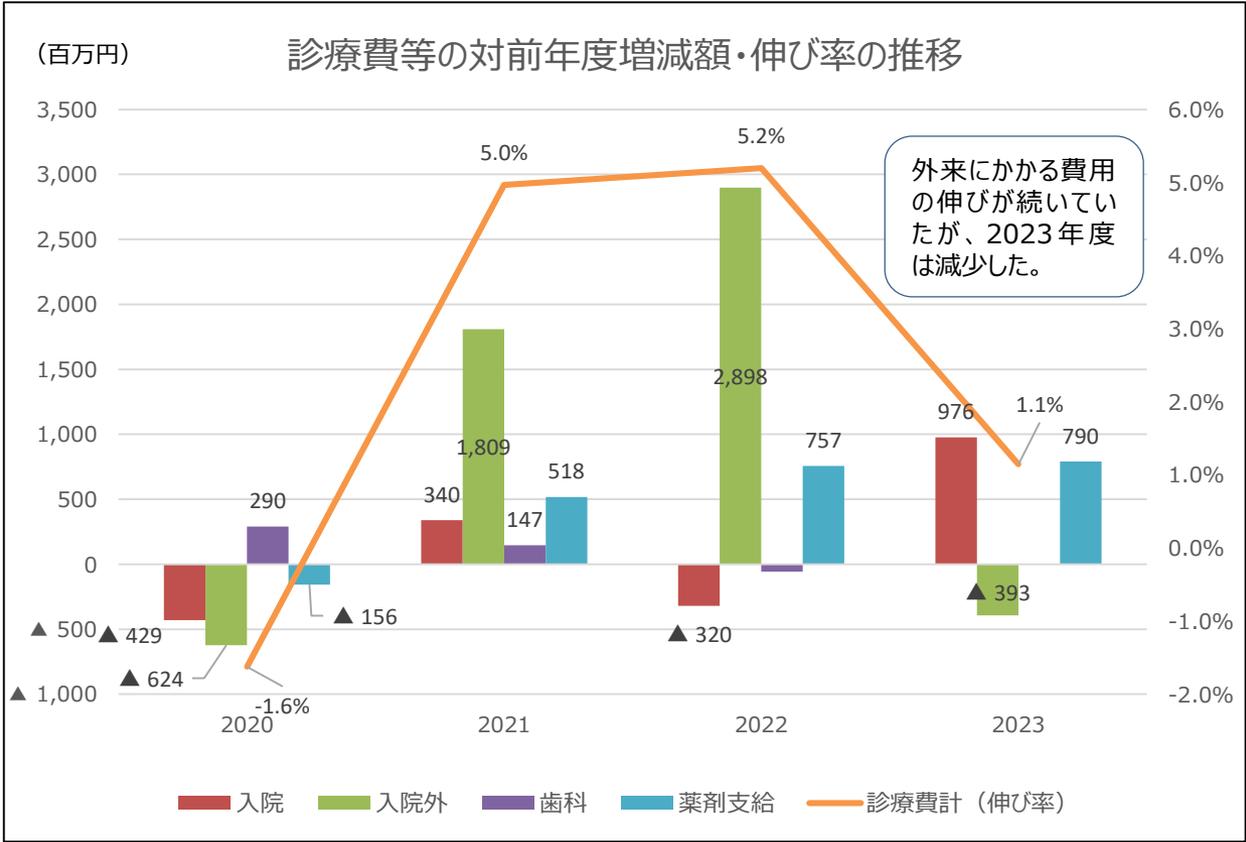


	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国	宮崎	全国
保険給付費計	-1.3%	-1.9%	4.8%	7.6%	5.2%	4.0%	1.9%	2.3%
医療給付費計	-1.6%	-2.6%	4.9%	7.9%	5.2%	3.6%	2.2%	2.4%
診療費計	-1.6%	-2.9%	5.0%	8.6%	5.2%	3.8%	1.1%	0.9%
入院	-2.2%	-2.9%	1.7%	6.2%	-1.6%	-1.5%	5.0%	3.0%
入院外	-2.9%	-4.2%	8.5%	11.7%	12.6%	8.8%	-1.5%	-0.6%
歯科	5.5%	2.1%	2.6%	4.7%	-1.0%	0.5%	0.0%	1.3%
薬剤支給	-1.4%	-1.6%	4.8%	6.0%	6.7%	3.6%	6.6%	8.4%
入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給を除く)	-7.5%	-6.6%	-2.2%	-0.1%	-6.5%	-5.7%	1.5%	0.7%
訪問看護療養費	17.5%	19.9%	15.9%	16.5%	4.2%	10.9%	19.1%	15.4%
入院時食事療養費・生活療養費 (標準負担額差額支給)	-42.5%	1.8%	42.1%	-21.9%	-50.0%	-9.5%	24.3%	21.1%
療養費	-3.5%	-2.7%	6.6%	1.7%	-8.2%	-3.9%	-2.5%	1.3%
移送費	-	21.4%	-78.3%	-53.4%	-100%	14.0%	-	219.0%
高額療養費(合計)	5.2%	6.3%	-11.9%	-8.7%	-14.5%	-9.8%	1.1%	5.4%
その他の現金給付計	1.7%	5.7%	3.2%	4.6%	5.2%	8.4%	-1.6%	1.9%
傷病手当金	13.3%	13.4%	4.7%	8.5%	17.8%	18.3%	-4.7%	-1.7%
埋葬料	11.3%	2.4%	-4.9%	-1.0%	6.0%	0.1%	1.6%	-4.4%
出産育児一時金	-8.9%	-5.3%	-0.8%	-0.9%	-7.9%	-6.3%	1.8%	10.0%
出産手当金	-3.1%	6.0%	7.2%	2.3%	-4.4%	2.4%	2.1%	2.6%

※協会けんぽ月報より

### 4-3.診療費等の対前年度増減額の推移状況

診療費を見ると、入院外の給付費は2021年度の約18億円の増加から、さらに2022年度に約29億円の増加となっていたが、2023年度は約3.9億円の減少となった。一方、入院の給付費は約9.8億円、薬剤支給の給付費は約7.9億円、合わせて約17.7億円増加した。2021年度、2022年度と比較すると、対前年度給付費の伸びは縮小した。



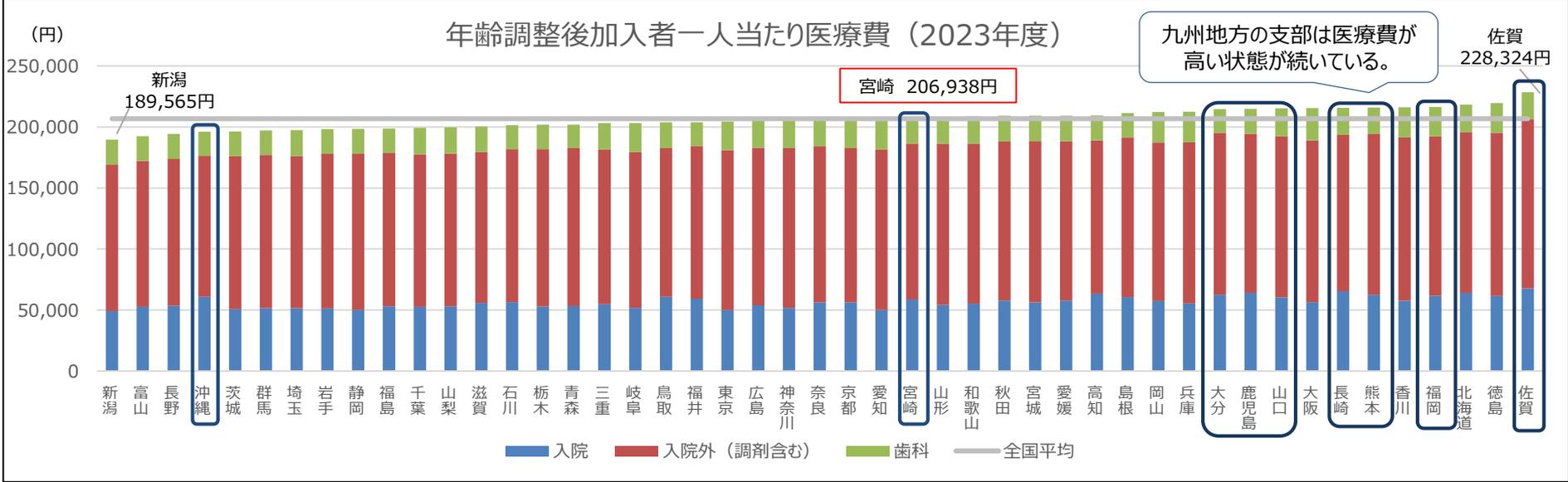
(診療費等の対前年度伸び率の推移) (%)

		2020	2021	2022	2023
診療費計	件数	-6.4	5.0	5.0	2.1
	日数	-7.0	2.3	2.1	0.9
	給付費	-1.6	5.0	5.2	1.1
入院	件数	-5.9	-0.2	-3.6	1.4
	日数	-7.7	-2.0	-5.6	2.1
	給付費	-2.2	1.7	-1.6	5.0
入院外	件数	-7.8	5.1	6.6	2.1
	日数	-8.3	3.8	5.0	1.3
	給付費	-2.9	8.5	12.6	-1.5
歯科	件数	-0.4	5.1	-0.9	2.0
	日数	-2.3	-0.5	-4.5	-1.0
	給付費	5.5	2.6	-1.0	0.0
薬剤支給	件数	-7.4	5.1	7.0	5.2
	日数	-9.3	4.9	6.1	5.9
	給付費	-1.4	4.8	6.7	6.6

※協会けんぽ月報より

# 5-1. 年齢調整後加入者一人当たり医療費の状況

宮崎支部の2023年度年齢調整後一人当たり医療費は206,938円であった（27位）。最も低い新潟支部が189,565円、最も高い支部は佐賀支部で228,324円だった。九州地方の多くの支部が医療費が高い中、宮崎支部も全国平均（206,701円）より237円高かった。



（診療種別の年齢調整後一人当たり医療費と順位〈九州・沖縄地方のみ〉）※（ ）内の順位は昇順・医療費が低い順。

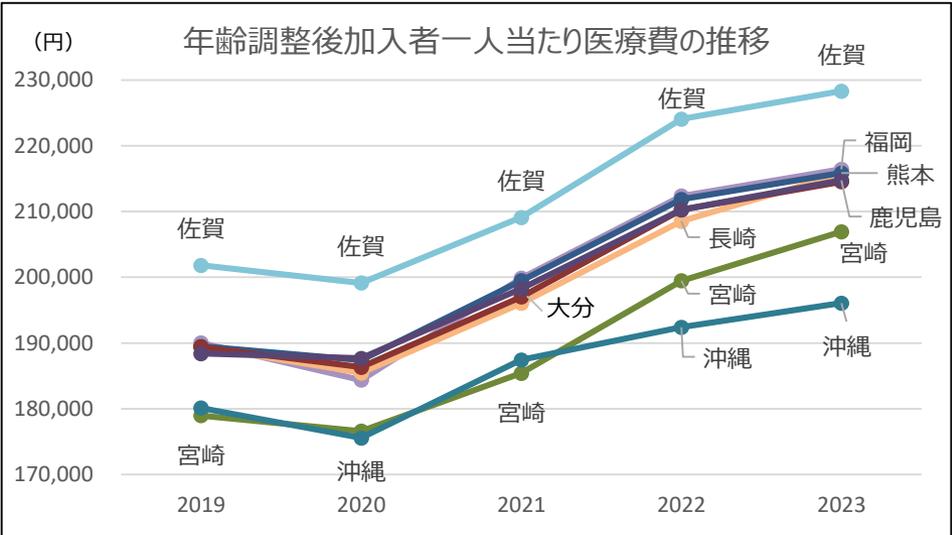
支部	入院	（順位）	入院外	（順位）	歯科	（順位）	合計	順位
福岡	61,777	(40)	130,319	(29)	24,342	(41)	216,438	(44)
佐賀	67,741	(47)	138,434	(47)	22,149	(31)	228,324	(47)
長崎	65,475	(46)	127,947	(23)	22,291	(33)	215,714	(41)
熊本	62,675	(42)	131,491	(37)	21,707	(28)	215,872	(42)
大分	62,495	(41)	132,627	(44)	19,408	(2)	214,531	(37)
宮崎	58,717	(33)	127,693	(20)	20,527	(16)	206,938	(27)
鹿児島	64,194	(45)	130,085	(28)	20,488	(14)	214,768	(38)
沖縄	60,874	(38)	115,619	(1)	19,592	(5)	196,085	(4)

入院で順位が下がり、合計は22位から27位に順位を下げた。（2022年度：入院28位、入院外21位、歯科19位）。

- 加入者基本情報、医療費基本情報より。入院外に薬剤含む。（以下同じ）

# 5-2. 年齢調整後加入者一人当たり医療費の推移状況

一人当たり医療費の推移状況を見ると、入院、入院外、歯科いずれも上昇し、特に入院医療費は約4,000円上昇し、過去5年間で最も高い状況となった。



(診療種別の年齢調整後一人当たり医療費と順位の推移)

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入院	53,869	54,966	54,762	58,717
順位 (入院)	33	27	28	33
入院外 (調剤含む)	103,285	110,478	124,565	127,693
順位 (入院外)	12	7	21	20
歯科	19,456	19,973	20,158	20,527
順位 (歯科)	20	17	19	16
総計	176,610	185,417	199,485	206,938
順位	26	15	22	27

入院外の順位が例年より下落

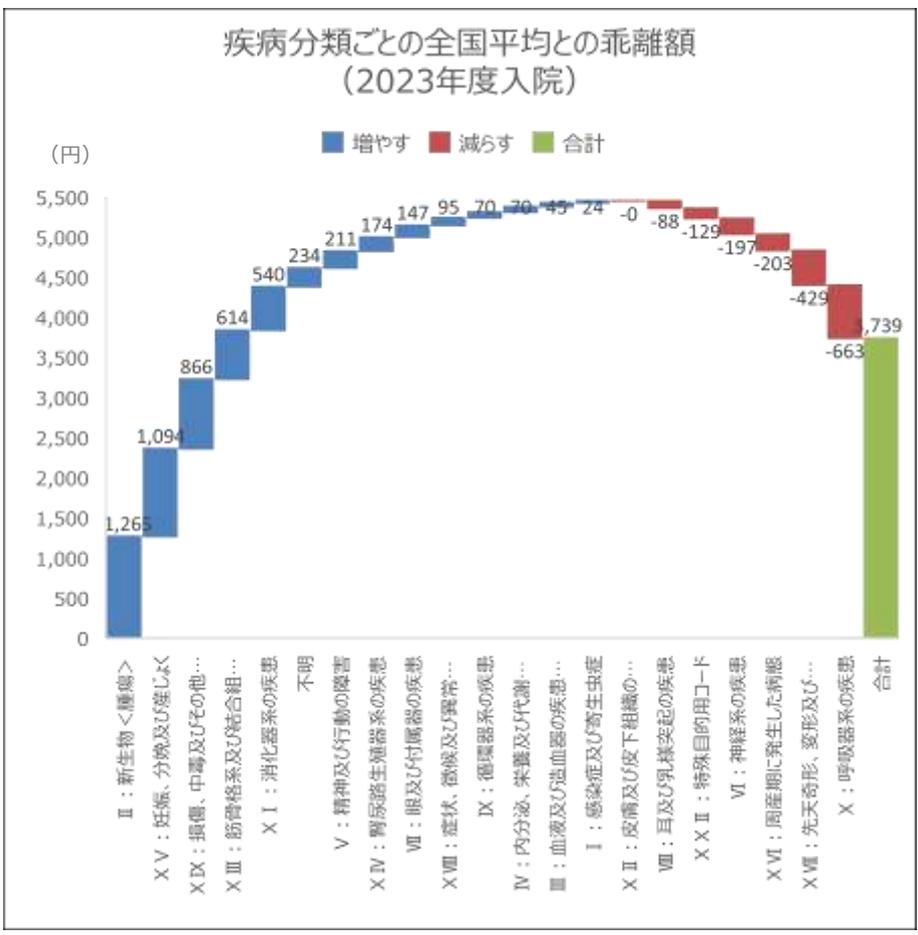
(年齢調整後一人当たり医療費と順位の推移<九州・沖縄地方のみ>)

支庁名	2020年度	2021年度 (順位)	2022年度 (順位)	2023年度 (順位)
福岡	184,374	199,873 (44)	212,364 (45)	216,438 (44)
佐賀	199,135	209,115 (47)	224,071 (47)	228,324 (47)
長崎	185,466	196,057 (36)	208,520 (38)	215,714 (41)
熊本	187,380	199,487 (43)	211,865 (44)	215,872 (42)
大分	186,327	197,009 (39)	210,280 (41)	214,531 (37)
宮崎	176,610	185,417 (15)	199,485 (22)	206,938 (27)
鹿児島	187,673	198,258 (40)	210,269 (40)	214,768 (38)
沖縄	175,555	187,434 (20)	192,411 (7)	196,085 (4)

※年齢調整は各年度毎の全国の構成割合を元に調整している。( ) 内の順位は昇順・医療費が低い順。

# 6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院医療費では、全国平均とのプラス乖離が最も大きい疾病は「新生物〈腫瘍〉」、次に「妊娠、分娩及び産じょく」であり、2つの疾病が宮崎の入院医療費を押し上げていることが確認できた。

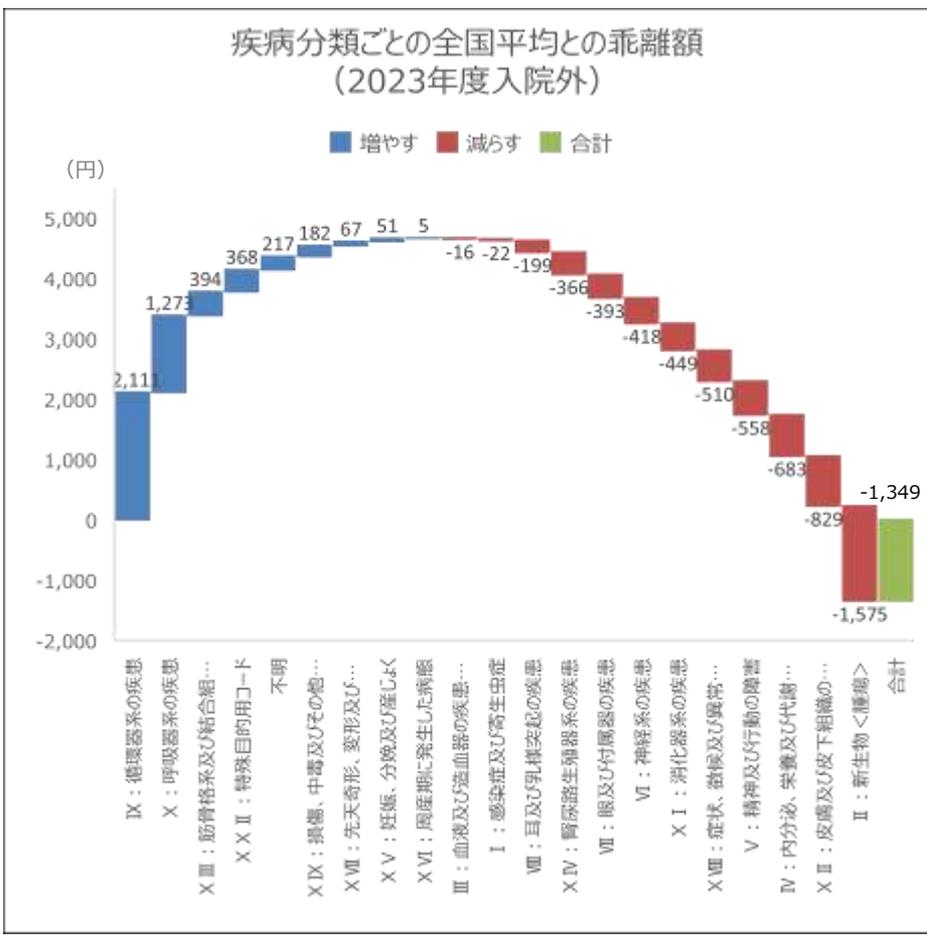


※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

疾病大分類	2023年度 宮崎	2023年度 全国	全国平均 との乖離額 (単位：円)
I：感染症及び寄生虫症	874	850	24
II：新生物〈腫瘍〉	14,358	13,093	1,265
III：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	503	457	45
IV：内分泌、栄養及び代謝疾患	1,178	1,108	70
V：精神及び行動の障害	2,090	1,880	211
VI：神経系の疾患	2,235	2,431	-197
VII：眼及び付属器の疾患	1,103	956	147
VIII：耳及び乳様突起の疾患	180	268	-88
IX：循環器系の疾患	10,378	10,308	70
X：呼吸器系の疾患	1,928	2,591	-663
X I：消化器系の疾患	4,479	3,939	540
X II：皮膚及び皮下組織の疾患	401	401	-0
X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	5,190	4,577	614
X IV：泌尿路生殖器系の疾患	2,230	2,056	174
X V：妊娠、分娩及び産じょく	3,112	2,017	1,094
X VI：周産期に発生した病態	1,587	1,790	-203
X VII：先天奇形、変形及び染色体異常	927	1,356	-429
X VIII：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	426	331	95
X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,907	4,042	866
X X II：特殊目的用コード	216	345	-129
不明	416	182	234
合計	58,717	54,979	3,739

# 6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院外医療費は、全国平均とのプラスの乖離が最も大きい疾病は「循環器系の疾患」であり、次に大きい疾病は「呼吸器系の疾患」であった。一方、「新生物〈腫瘍〉」はマイナスの乖離が最も大きく、入院外医療費全体では、全国平均を下回った。



疾病大分類	2023年度 宮崎	2023年度 全国	全国平均との乖離額
I: 感染症及び寄生虫症	3,961	3,984	-22
II: 新生物〈腫瘍〉	12,048	13,623	-1,575
III: 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	2,375	2,391	-16
IV: 内分泌、栄養及び代謝疾患	13,352	14,035	-683
V: 精神及び行動の障害	5,310	5,868	-558
VI: 神経系の疾患	4,206	4,624	-418
VII: 眼及び付属器の疾患	5,070	5,463	-393
VIII: 耳及び乳様突起の疾患	1,151	1,350	-199
IX: 循環器系の疾患	15,550	13,438	2,111
X: 呼吸器系の疾患	20,366	19,094	1,273
XI: 消化器系の疾患	7,464	7,913	-449
XII: 皮膚及び皮下組織の疾患	6,858	7,687	-829
XIII: 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,675	9,281	394
XIV: 腎尿路生殖器系の疾患	8,173	8,538	-366
XV: 妊娠、分娩及び産じょく	293	241	51
XVI: 周産期に発生した病態	329	324	5
XVII: 先天奇形、変形及び染色体異常	1,139	1,073	67
XVIII: 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,156	2,666	-510
XIX: 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,229	3,046	182
XXII: 特殊目的用コード	3,665	3,297	368
不明	1,323	1,106	217
合計	127,693	129,042	-1,349

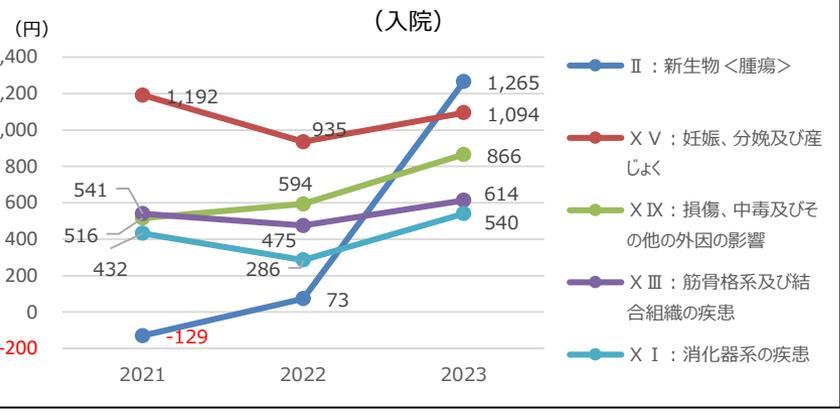
※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

# 6-2.全国平均からの乖離状況の推移（2021年度→2023年度）

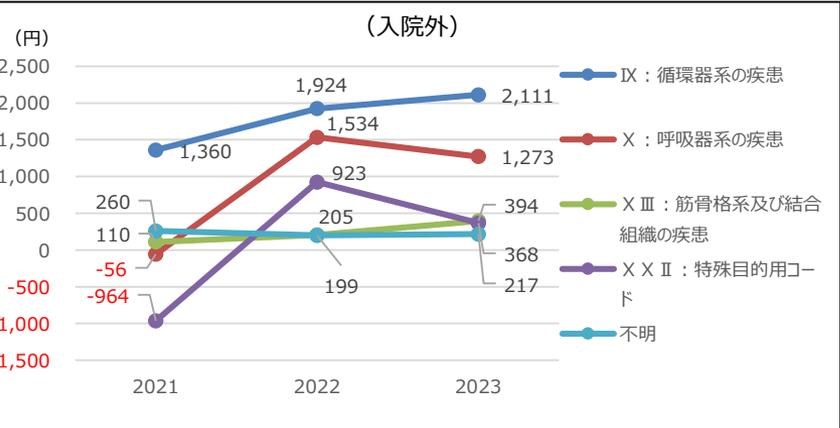
入院医療費では、「新生物<腫瘍>」は2023年度に大幅に乖離額が増加した。また、「妊娠、分娩及び産じょく」は乖離額が高い状態が続いている。入院外医療費では、新型コロナの流行等により「呼吸器系の疾患」と「特殊目的用コード」は増減が生じたが、「循環器系の疾患」の乖離額が最も高く、かつ、乖離が拡大している。

(全国平均との乖離額の推移：2023年度乖離額上位5疾病のみ)

(単位：円)



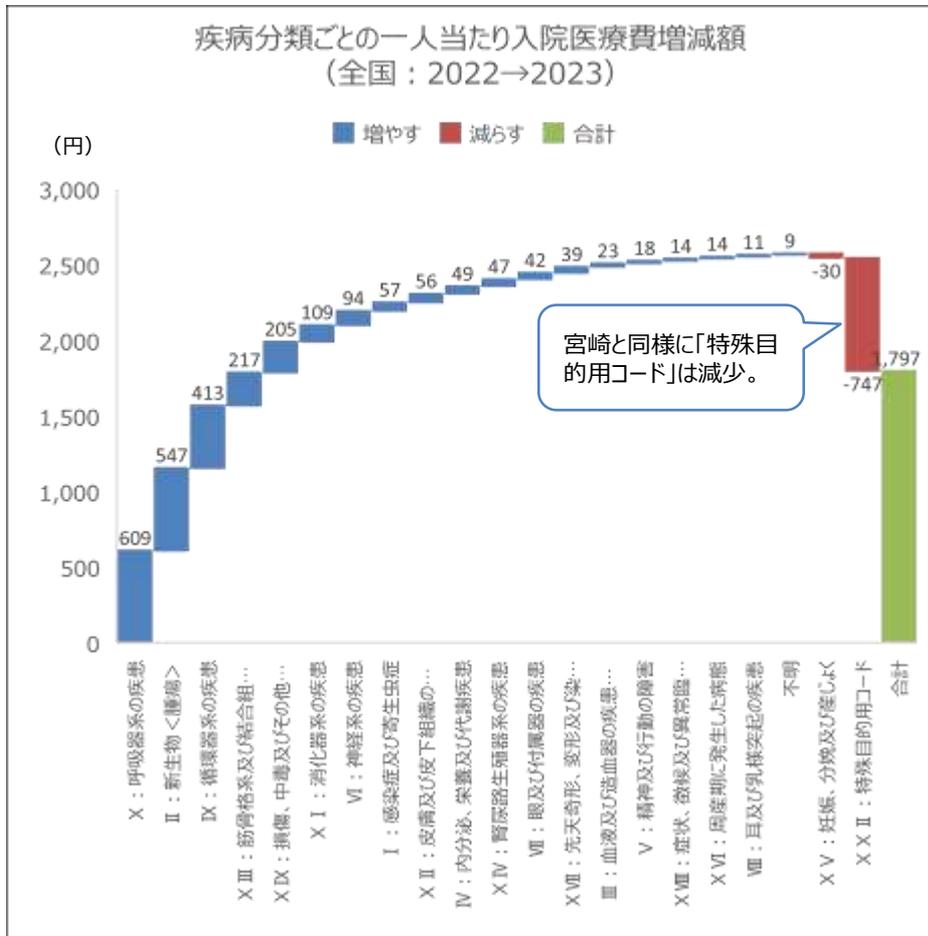
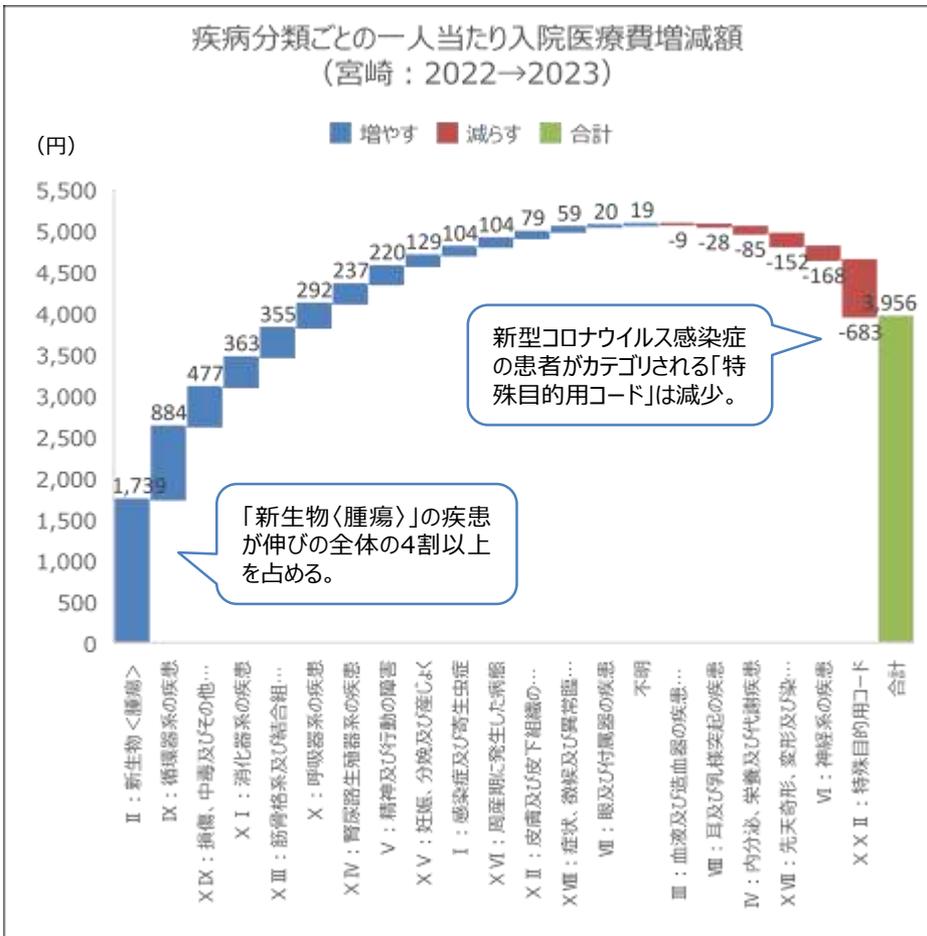
疾病大分類	2021年度			2022年度			2023年度		
	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額
II：新生物<腫瘍>	12,250	12,379	-129	12,619	12,545	73	14,358	13,093	1,265
XV：妊娠、分娩及び産じょく	3,255	2,063	1,192	2,982	2,047	935	3,112	2,017	1,094
IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,187	3,671	516	4,431	3,837	594	4,907	4,042	866
XIII：筋骨格系及び結合組織の疾患	4,848	4,307	541	4,835	4,360	475	5,190	4,577	614
XI：消化器系の疾患	4,195	3,762	432	4,116	3,829	286	4,479	3,939	540



疾病大分類	2021年度			2022年度			2023年度		
	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額	宮崎	全国	乖離額
IX：循環器系の疾患	14,830	13,470	1,360	15,362	13,438	1,924	15,550	13,438	2,111
X：呼吸器系の疾患	12,639	12,695	-56	17,249	15,715	1,534	20,366	19,094	1,273
XIII：筋骨格系及び結合組織の疾患	9,363	9,253	110	9,424	9,219	205	9,675	9,281	394
XXII：特殊目的用コード	1,231	2,195	-964	6,747	5,824	923	3,665	3,297	368
不明	967	707	260	1,246	1,048	199	1,323	1,106	217

# 6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

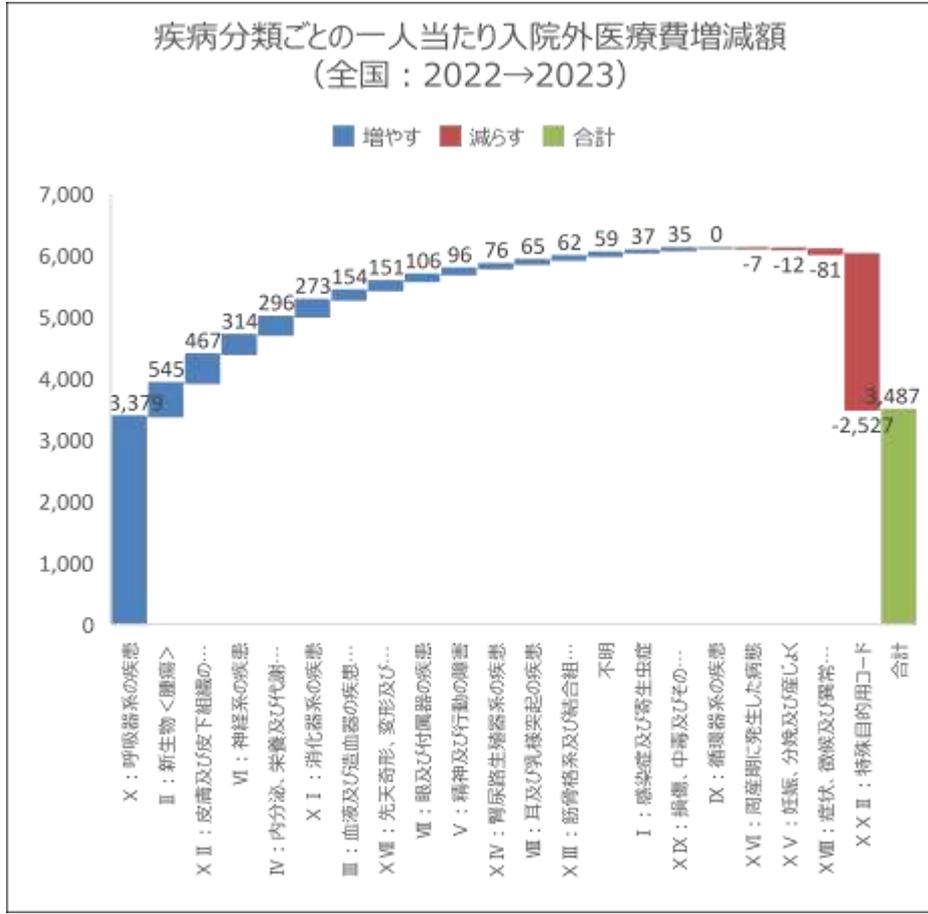
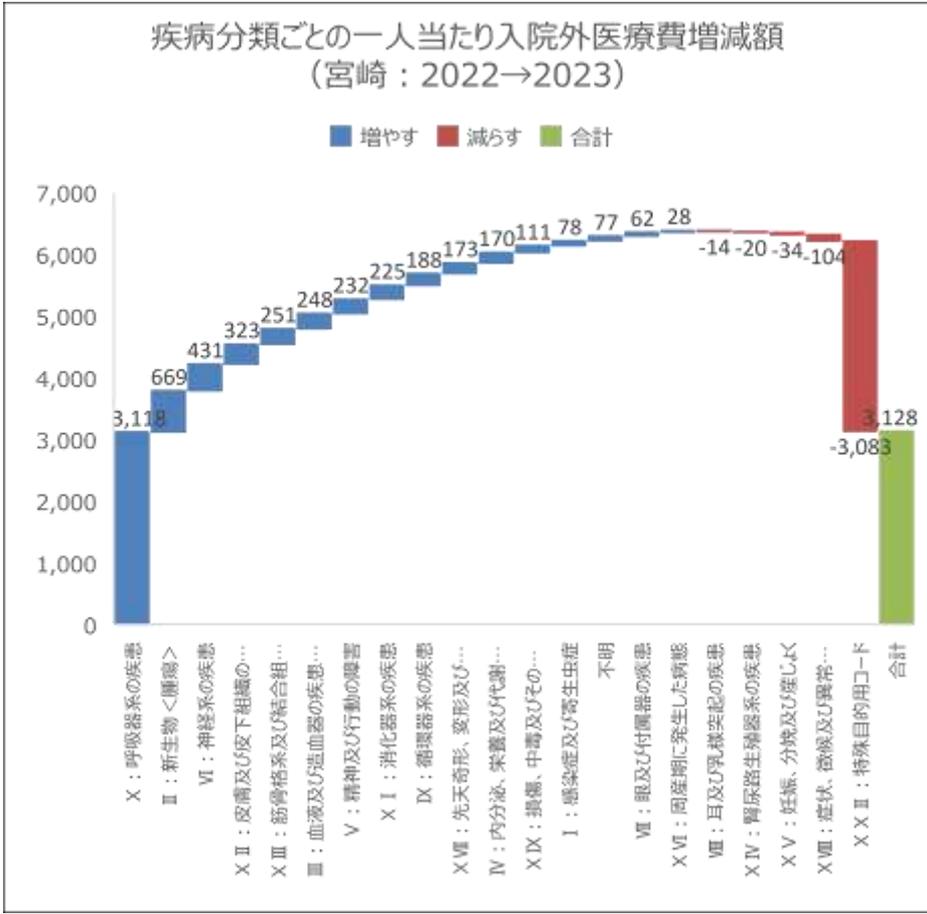
傷病別の一人当たり入院医療費の増減を確認すると、新型コロナの患者がカテゴリされる「特殊目的用コード」は宮崎と全国いずれも前年度と比較して減少したが、宮崎では「新生物(腫瘍)」の大幅に上昇していた。



※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

### 6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

傷病別の一人当たり入院外医療費の増減を確認すると、宮崎と全国いずれも新型コロナの患者がカテゴリされる「特殊目的用コード」は大幅に減少したが、「呼吸器系の疾患」は大幅に増加した。

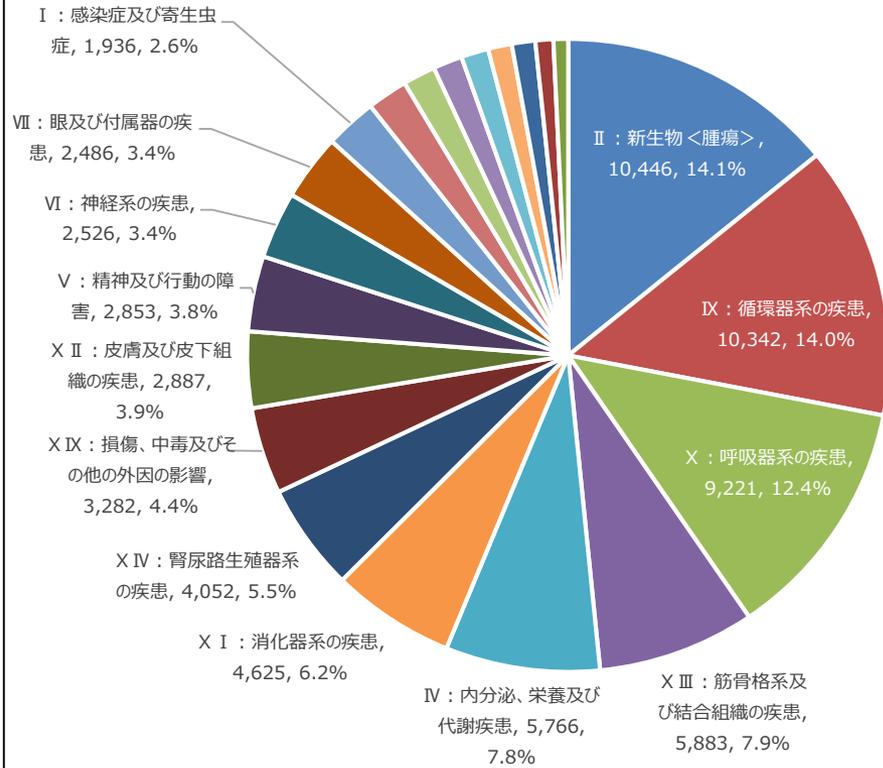


※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

# 7-1. 疾病別医療費の状況

疾病別の医療費を見ると、「新生物〈腫瘍〉」と「循環器系の疾患」がそれぞれ100億円を超えている。新型コロナウイルスの影響により大幅に増加した「呼吸器系の疾患」と「特殊目的用コード」のうち、後者は減少したが、前者は2022年度よりもさらに増加した。

医療費の疾病別の内訳（2023年度）



(疾病別医療費の金額と構成割合の推移)

(単位：百万円)

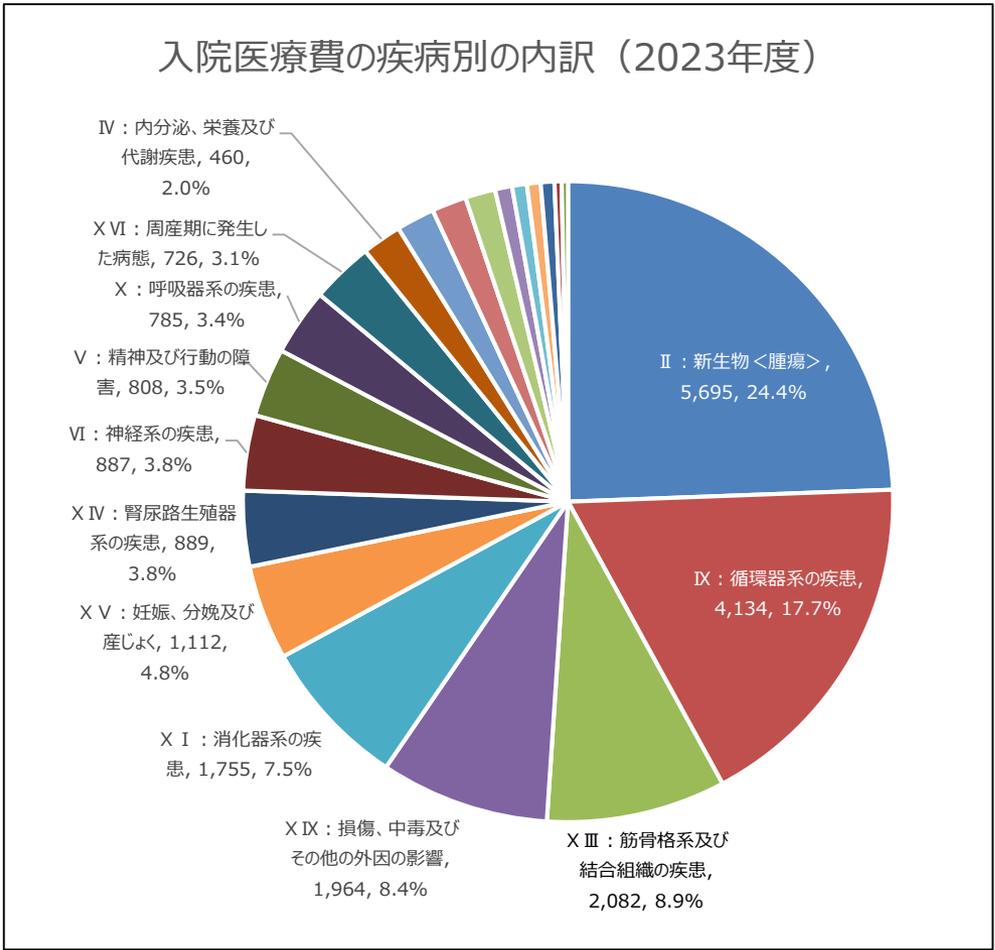
疾病大分類	2022年度	構成割合	2023年度	構成割合
II : 新生物〈腫瘍〉	9,694	13.4%	10,446	14.1%
IX : 循環器系の疾患	10,145	14.0%	10,342	14.0%
X : 呼吸器系の疾患	7,916	10.9%	9,221	12.4%
XIII : 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,756	7.9%	5,883	7.9%
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	5,823	8.0%	5,766	7.8%
XI : 消化器系の疾患	4,488	6.2%	4,625	6.2%
XIV : 泌尿路生殖器系の疾患	4,038	5.6%	4,052	5.5%
IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,110	4.3%	3,282	4.4%
XII : 皮膚及び皮下組織の疾患	2,776	3.8%	2,887	3.9%
V : 精神及び行動の障害	2,734	3.8%	2,853	3.8%
VI : 神経系の疾患	2,468	3.4%	2,526	3.4%
VII : 眼及び付属器の疾患	2,500	3.4%	2,486	3.4%
I : 感染症及び寄生虫症	1,883	2.6%	1,936	2.6%
XXII : 特殊目的用コード	3,054	4.2%	1,519	2.0%
XV : 妊娠、分娩及び産じょく	1,211	1.7%	1,216	1.6%
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1,031	1.4%	1,095	1.5%
XXVIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,058	1.5%	1,024	1.4%
XXVII : 先天奇形、変形及び染色体異常	885	1.2%	884	1.2%
XXVI : 周産期に発生した病態	826	1.1%	876	1.2%
不明	643	0.9%	668	0.9%
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	569	0.8%	547	0.7%
合計	72,607		74,131	

※加入者基本情報、医療費基本情報より。

※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

# 7-2. 疾病別入院医療費の状況

2022年度と比較して入院医療費は全体で約11.2億円増加した。「新生物<腫瘍>」が約5.8億円増加した影響が大きい。また、「循環器系の疾患」の医療費も約2.5億円増加したが、2021年度の水準（約43億円）には達していない。



(疾病別入院医療費の金額と構成割合の推移) (単位：百万円)

疾病大分類	2022年度	構成割合	2023年度	構成割合
II : 新生物<腫瘍>	5,112	23%	5,695	24.4%
IX : 循環器系の疾患	3,885	17%	4,134	17.7%
XIII : 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,978	9%	2,082	8.9%
IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,815	8%	1,964	8.4%
XI : 消化器系の疾患	1,645	7%	1,755	7.5%
XV : 妊娠、分娩及び産じょく	1,092	5%	1,112	4.8%
XIV : 腎尿路生殖器系の疾患	799	4%	889	3.8%
VI : 神経系の疾患	969	4%	887	3.8%
V : 精神及び行動の障害	742	3%	808	3.5%
X : 呼吸器系の疾患	669	3%	785	3.4%
XVI : 周産期に発生した病態	687	3%	726	3.1%
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	508	2%	460	2.0%
VII : 眼及び付属器の疾患	449	2%	445	1.9%
XVII : 先天奇形、変形及び染色体異常	476	2%	402	1.7%
I : 感染症及び寄生虫症	310	1%	350	1.5%
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	201	1%	198	0.8%
XVIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	151	1%	172	0.7%
不明	153	1%	158	0.7%
XII : 皮膚及び皮下組織の疾患	132	1%	158	0.7%
XXII : 特殊目的用コード	354	2%	83	0.4%
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	86	0%	73	0.3%
合計	22,213		23,335	

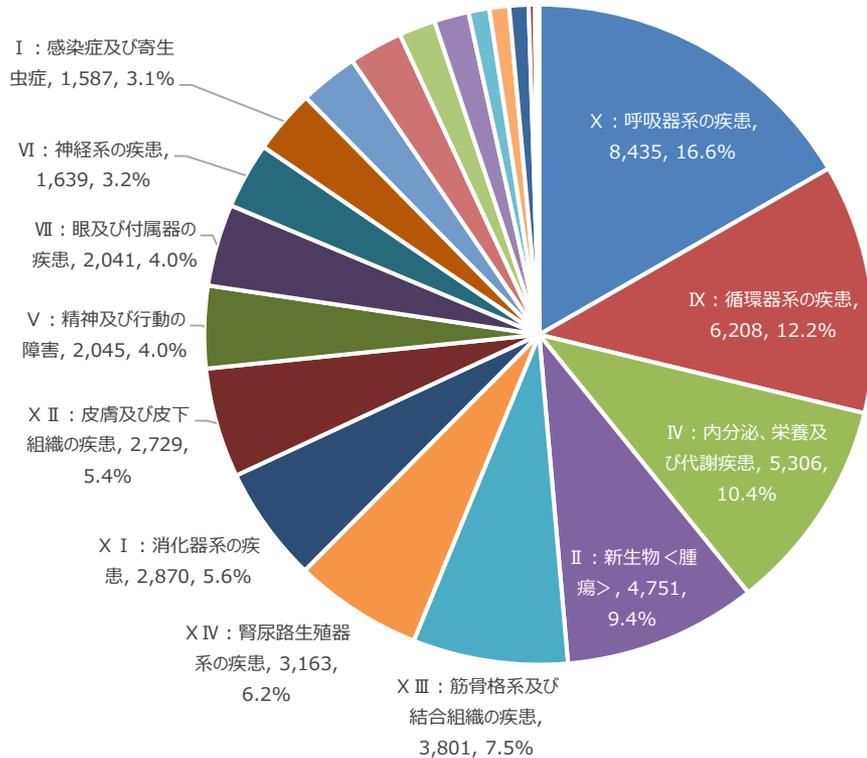
※加入者基本情報、医療費基本情報より。

※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

## 7-3. 疾病別入院外医療費の状況

入院外の医療費は全体で約4億円増加したが、2022年度は前年度比約49.2億円の増加であったため、増加幅は縮小した。新型コロナが該当する「特殊目的用コード」は前年度から約12.6億円減少したが、「呼吸器系の疾患」は前年度から約11.9億円増加し、前年度に続き最も入院外医療費が多い疾病であった。

入院外医療費の疾病別の内訳（2023年度）



（疾病別入院外医療費の金額と構成割合の推移）

（単位：百万円）

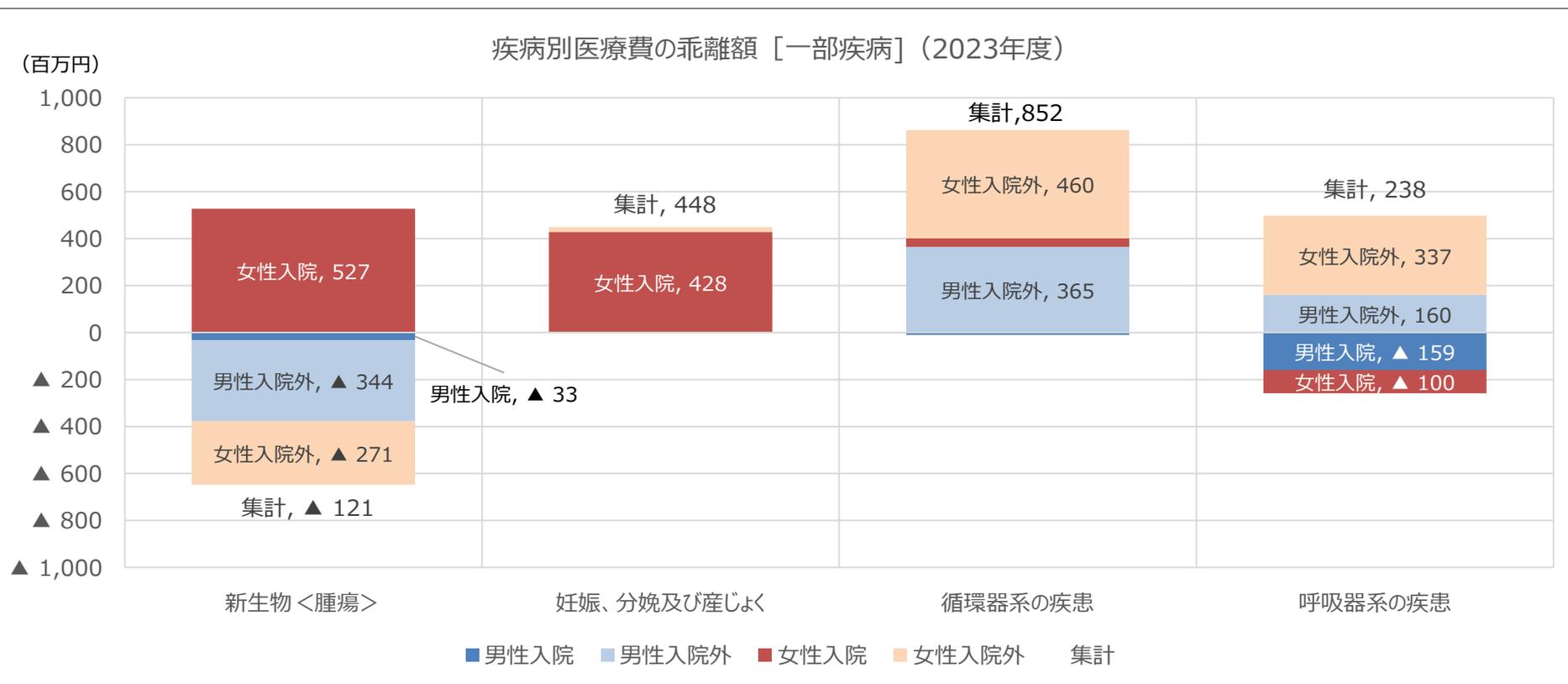
疾病大分類	2022年度	構成割合	2023年度	構成割合
X : 呼吸器系の疾患	7,247	14.4%	8,435	16.6%
IX : 循環器系の疾患	6,260	12.4%	6,208	12.2%
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	5,315	10.5%	5,306	10.4%
II : 新生物<腫瘍>	4,582	9.1%	4,751	9.4%
XIII : 筋骨格系及び結合組織の疾患	3,778	7.5%	3,801	7.5%
XIV : 腎尿路生殖器系の疾患	3,239	6.4%	3,163	6.2%
XI : 消化器系の疾患	2,843	5.6%	2,870	5.7%
IXII : 特殊目的用コード	2,699	5.4%	1,436	2.8%
IXII : 皮膚及び皮下組織の疾患	2,644	5.2%	2,729	5.4%
VII : 眼及び付属器の疾患	2,052	4.1%	2,041	4.0%
V : 精神及び行動の障害	1,992	4.0%	2,045	4.0%
I : 感染症及び寄生虫症	1,573	3.1%	1,587	3.1%
VI : 神経系の疾患	1,499	3.0%	1,639	3.2%
IXIX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,295	2.6%	1,318	2.6%
IXVIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	907	1.8%	852	1.7%
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	830	1.6%	897	1.8%
不明	490	1.0%	510	1.0%
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	482	1.0%	473	0.9%
IXVII : 先天奇形、変形及び染色体異常	409	0.8%	482	0.9%
IXVI : 周産期に発生した病態	139	0.3%	150	0.3%
IXV : 妊娠、分娩及び産じょく	119	0.2%	104	0.2%
合計	50,394		50,796	

※加入者基本情報、医療費基本情報より。

※医療費の数値は年齢調整を行っていない医療費総額。

## 8-1. 疾病別医療費の全国からの乖離状況

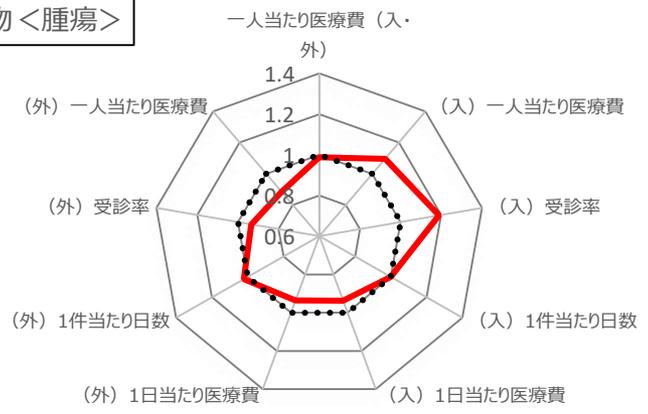
疾病別の入院・入院外一人当たり医療費について、全国平均との乖離が+1,000円以上ある4疾病（「新生物＜腫瘍＞」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「循環器系の疾患」、「呼吸器系の疾患」）について、乖離額を確認すると、最も高いのは前年度に引き続き「循環器系の疾患」であり、金額は+約8.5億円であった。続いて「妊娠、分娩および産じょく」は+約4.5億円であった。「新生物＜腫瘍＞」は、入院医療費+約4.9億円であったが、入院外医療費-約6.2億円であり、全体では約-1.2億円となった。



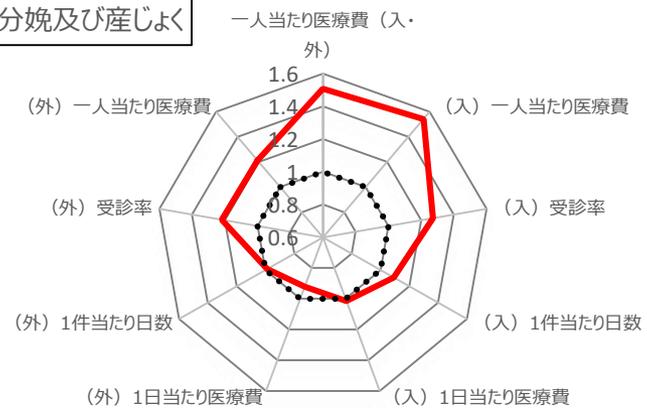
# 8-2. 傷病別医療費の三要素分解

入院医療費が高い「新生物<腫瘍>」は入院受診率が高いことが影響し、「妊娠、分娩及び産じょく」は入院受診率の高さと1件当たりの入院日数が長いことが影響している。  
 入院外医療費が高い「循環器系の疾患」は入院外受診率が高いことが影響している。入院も受診率が高いが、1日当たり医療費は低いため全国平均との乖離は小さい。「呼吸器系の疾患」は入院外受診率の高さが影響しており、入院は受診率と1日当たり医療費は低いため全国平均を大きく下回っている。

新生物<腫瘍>

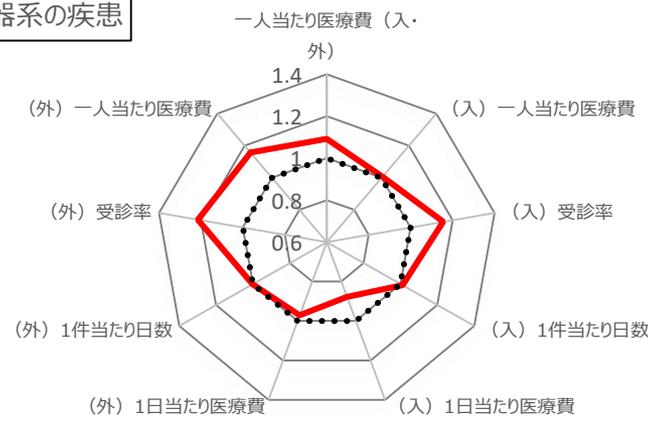


妊娠、分娩及び産じょく

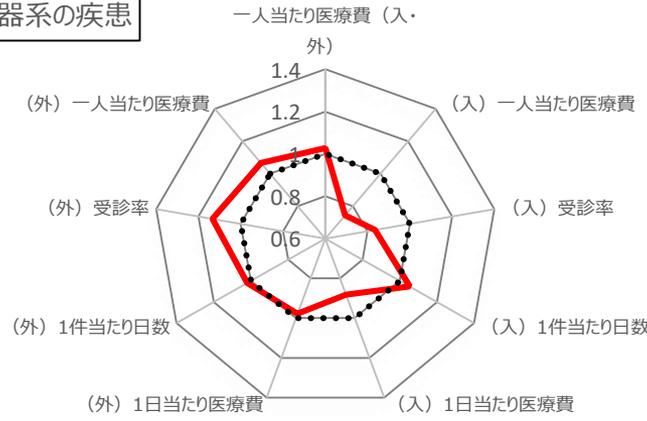


● 全国の三要素を基準「1」（黒点線）とした時の、支部（赤線）の三要素を指数で表示したもの（入院は（入）、入院外は（外）と表示）。一人当たり医療費は年齢調整後。

循環器系の疾患



呼吸器系の疾患



【一人当たり医療費を構成する三要素】

一人当たり医療費  
 (医療費÷人数)

||

受診率  
 (レセプト件数÷人数)

×

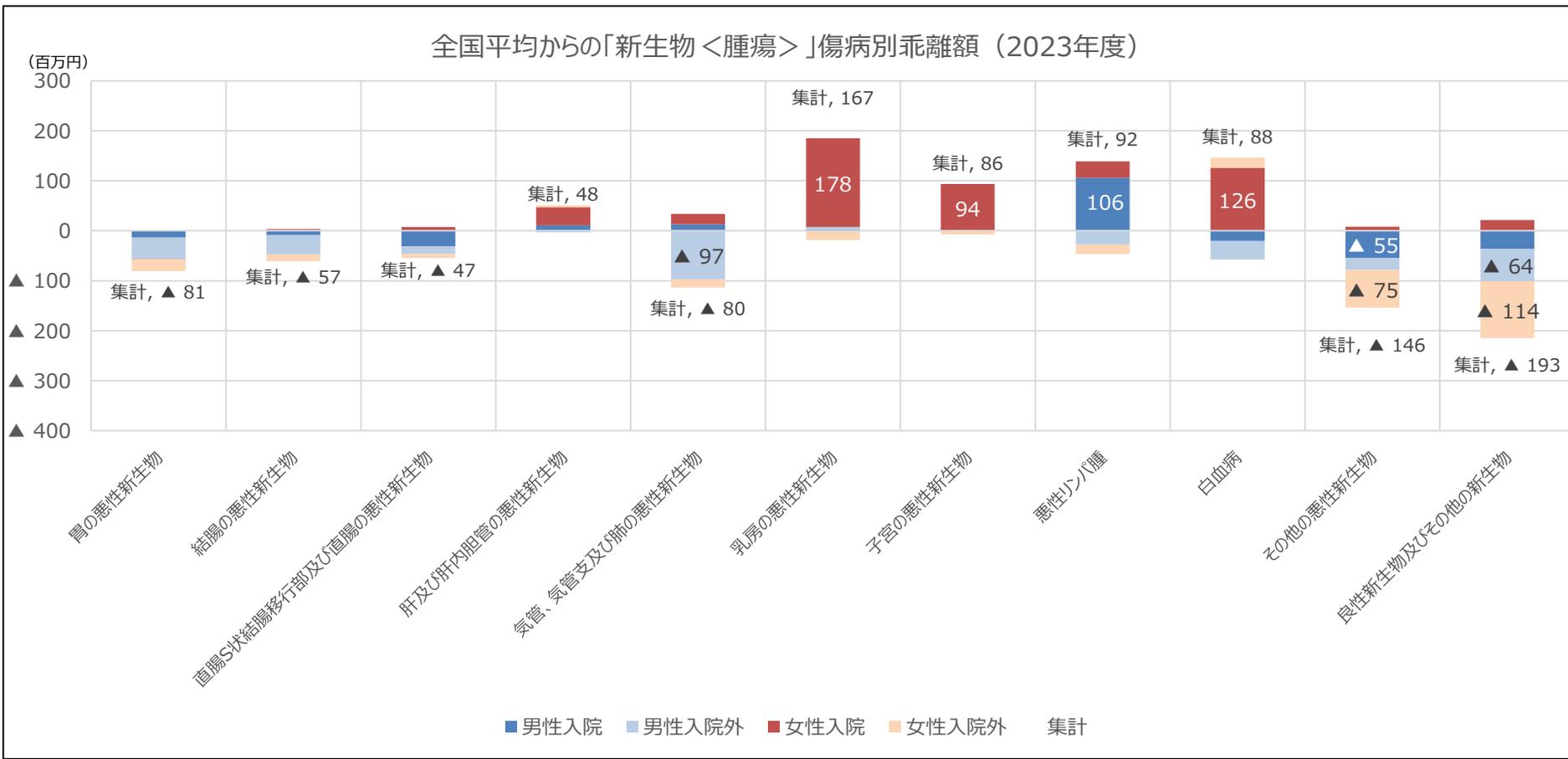
1件当たり日数  
 (診療実日数÷レセプト件数)

×

1日当たり医療費  
 (医療費÷診療実日数)

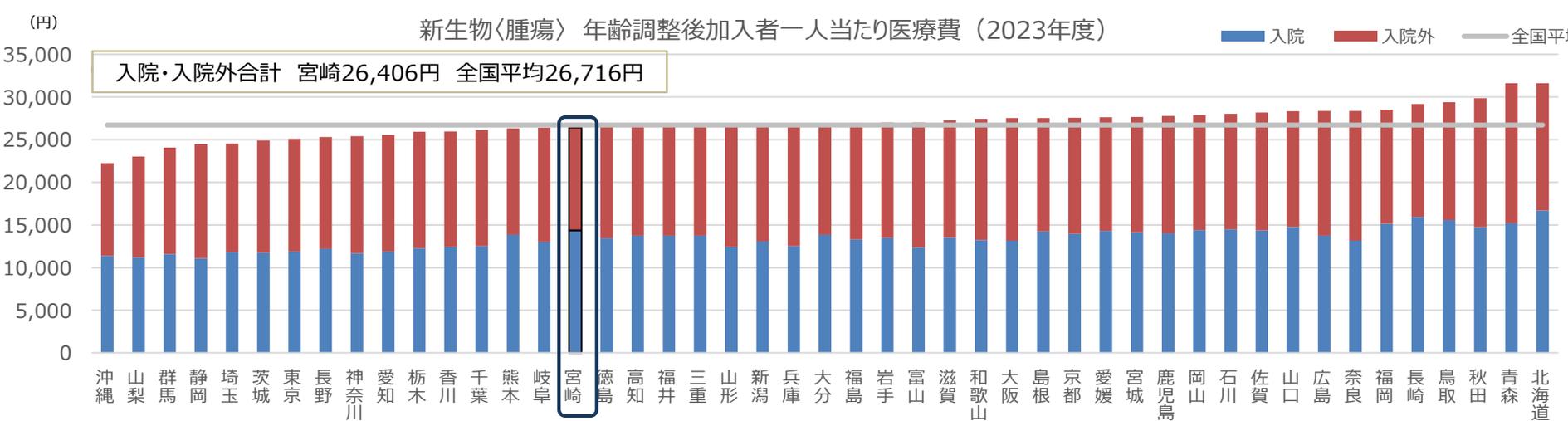
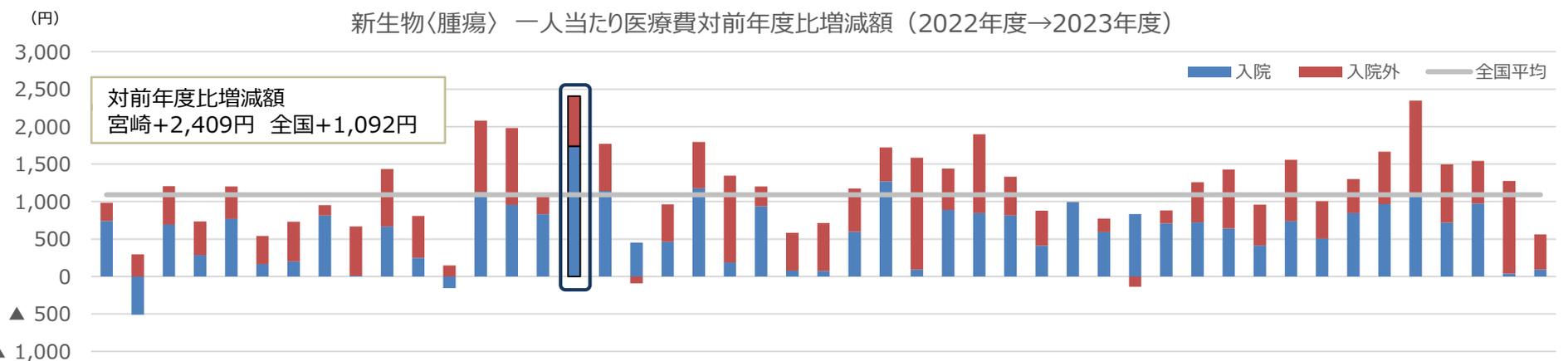
# 8-3.「新生物〈腫瘍〉」の乖離状況の細分類

入院医療費において最もプラス乖離が大きい「新生物〈腫瘍〉」をより細かい分類で確認すると、男性では「悪性リンパ腫」、女性では「乳房の悪性新生物」、「子宮の悪性新生物」、「白血病」において乖離額が大きい。  
 入院外医療費では、多くの傷病でマイナス乖離となっており、「新生物〈腫瘍〉」全体では乖離額はマイナスとなった。



# 8-3.「新生物〈腫瘍〉」の乖離状況の細分類

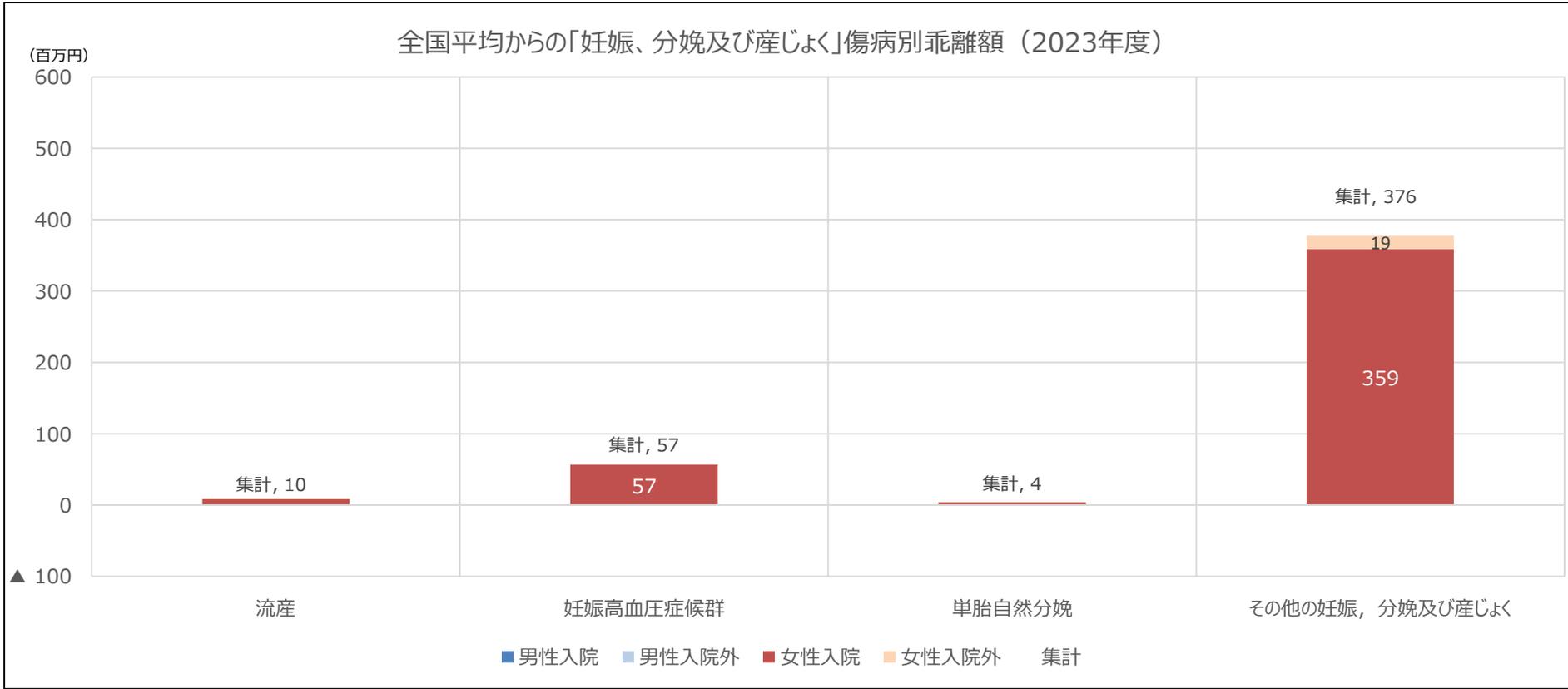
■ 一人当たり医療費の対前年度比増減額【上のグラフ】  
 宮崎は、全国の中で対前年度増加額が最も高く、入院医療費の増加額（1,739円）も全国で最も高い。  
 ■ 2023年度一人当たり医療費【下のグラフ】  
 宮崎では入院医療費は高く、入院外医療費は低いという状況が続いており、入院と入院外の合計は全国平均を下回った。



## 8-4.「妊娠、分娩及び産じょく」の乖離状況の細分類

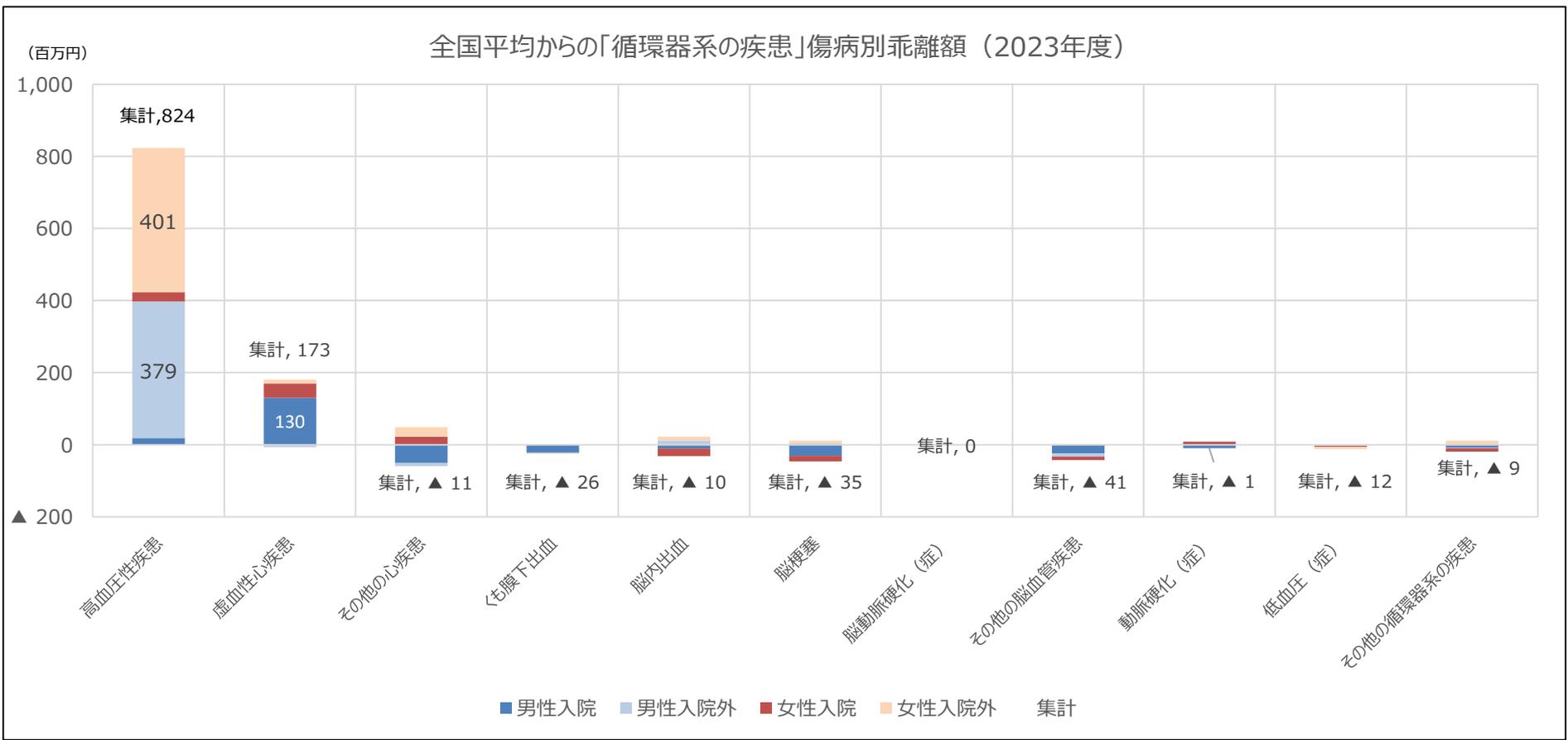
入院医療費において2番目にプラス乖離が大きい「妊娠、分娩及び産じょく」をより細かい分類で確認すると、全体の8割近くは「その他の妊娠、分娩及び産じょく」が占めている（約3.6億円）。また、「妊娠高血圧症候群」も約0.6億円と一定の乖離がある。

入院外医療費では、入院のように大きな乖離はみられないが、「その他の妊娠、分娩及び産じょく」において約0.2億円の乖離があった。



# 8-5.「循環器系の疾患」の乖離状況の細分類

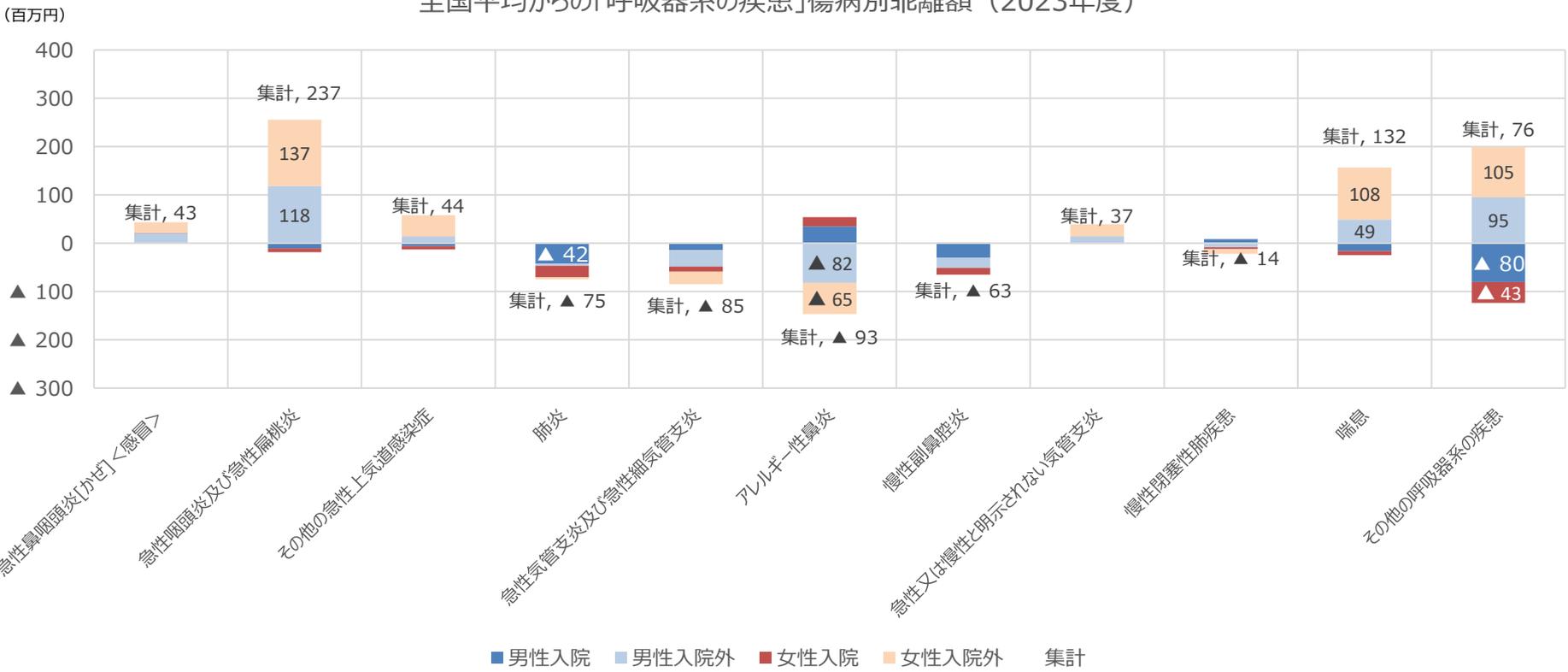
入院外医療費において最もプラス乖離が大きい「循環器系の疾患」をより細かい分類で確認すると、その殆どが「高血圧性疾患」により発生していた。これは、「本態性高血圧」と呼ばれる一般的な高血圧の治療から発生しており、「高血圧性疾患」の乖離額は約8.2億円であり、前年度の約7.7億円から約0.5億円増加した。その他プラス乖離は、「虚血性心疾患」の約1.7億円であり、前年度の約0.3億円から約1.4億円増加した。



# 8-6.「呼吸器系の疾患」の乖離状況の細分類

入院外医療費において2番目にプラス乖離が大きい「呼吸器系の疾患」をより細かい分類で確認すると、男女ともに「急性咽頭炎及び急性扁桃炎」、「喘息」、「その他の呼吸器系の疾患」で乖離が大きい。「急性咽頭炎及び急性扁桃炎」は約2.4億円、「喘息」は約1.3億円のプラス乖離となった。「その他の呼吸器系の疾患」は入院外では約2億円のプラス乖離となったが、入院では1.2億円のマイナス乖離となり、合計では約0.8億円の乖離となった。入院は「アレルギー性鼻炎」を除きマイナス乖離となった。入院は約2.6億円のマイナス乖離、入院外は約5.0億円のプラス乖離となり、疾病全体では約2.4億円のプラス乖離となった。

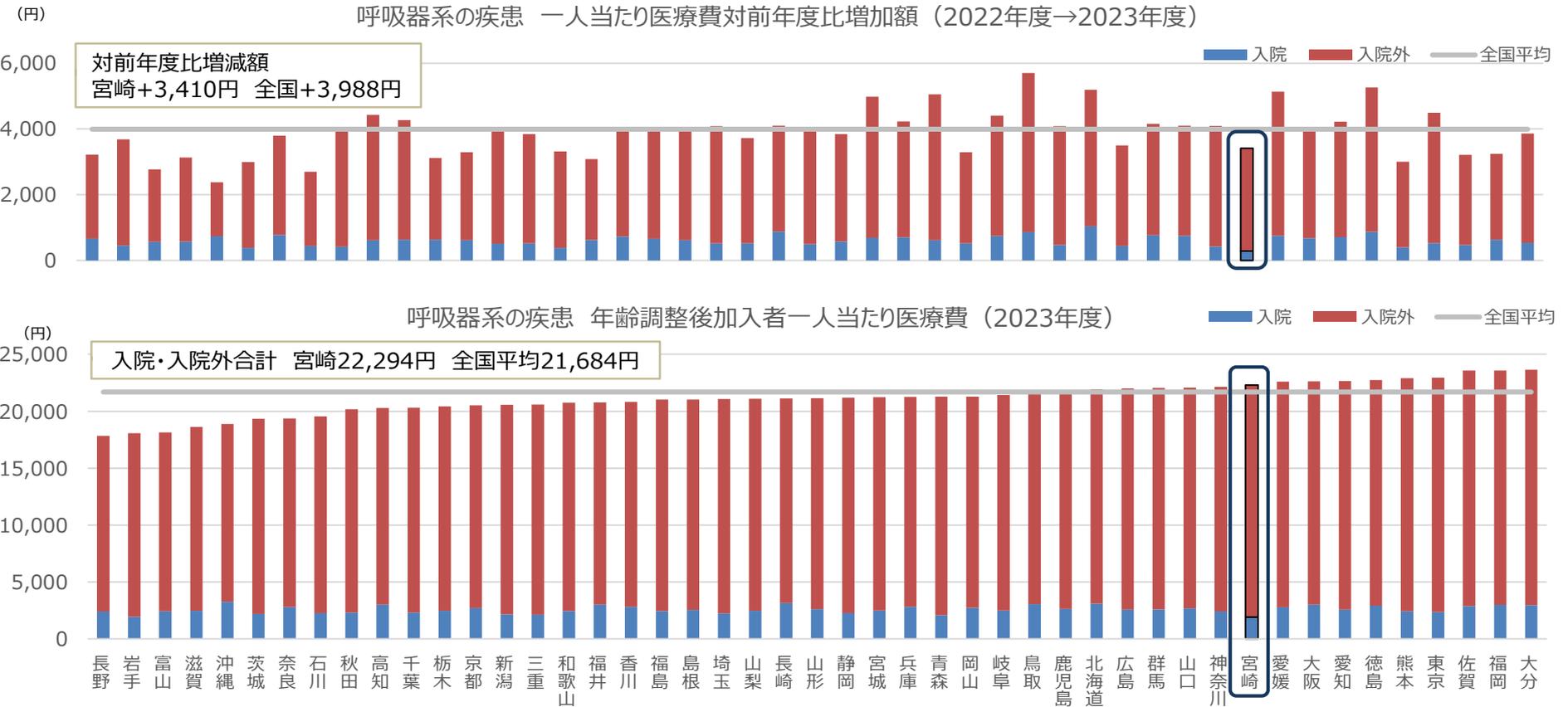
全国平均からの「呼吸器系の疾患」傷病別乖離額（2023年度）



# 8-6.「呼吸器系の疾患」の乖離状況の細分類

■ 一人当たり医療費の対前年度比増加額【上のグラフ】  
 宮崎は、入院の対前年度比増加額が最も低く、入院外も全国平均を下回った。

■ 2023年度一人当たり医療費【下のグラフ】  
 全国的に入院外医療費は増加。宮崎では入院医療費は全国で最も低いが、入院外医療費は全国で6番目に高く、入院と入院外を合わせた医療費は全国平均より610円高い。宮崎の他にも、九州の複数の県では医療費が高い傾向にある。



## 9.まとめ

### (加入者数、報酬)

2023年度は、前年度に引き続き被保険者・被扶養者ともに減少しており、被保険者では30歳代、40歳代の年齢階層が減少しており、5年度間の推移を確認すると50歳代以上の占める割合は増加している。

被保険者の標準報酬月額は継続して上昇しており、対前年度伸び率は全国平均と同程度である。

### (医療費全体)

2023年度の医療費のうち、歯科医療費は前年度から横ばいであったが、入院医療費は約11.2億円、入院外医療費は約4億円増加した。入院外医療費は、2022年度において新型コロナウイルス等の流行による「呼吸器系の疾患」と「特殊目的用コード」の大幅な増加により、前年度比約49.2億円増加したが、2023年度の前年度比増加額は縮小した。

### (入院医療費)

疾病別では、「新生物〈腫瘍〉」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」は全国平均とのプラス乖離が大きい。「新生物〈腫瘍〉」は前年度比約5.8億円増加し100億円超となった。「新生物〈腫瘍〉」について、女性の「乳房の悪性新生物〈腫瘍〉」と「子宮の悪性新生物〈腫瘍〉」は全国平均との乖離が大きい。また、妊娠糖尿病を含む「その他の妊娠、分娩及び産じょく」は、これまでと同様に全国平均との乖離が大きい。

### (入院外医療費)

全体としては約4億円の増加であり、2022年度の前年度比約49.2億円よりも増加額は縮小した。疾病別では、「循環器系の疾患」は全国平均と最もプラス乖離が大きく、その中でも「高血圧性疾患」は男女ともに全国平均との乖離が大きい。次に全国平均との乖離が大きい疾病は「呼吸器系の疾患」であり、男女ともに「急性咽頭炎及び急性扁桃炎」、「喘息」、「その他の呼吸器系の疾患」において乖離が大きい。